

令和 3 年度
仙台市市民活動サポートセンター
年間報告書

特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター

1 はじめに 総括	P 1	7 集計一覧	
2 場の提供	P13	資料 1	サポートセンター年間行事
2-1 貸室、フリースペース	P15	資料 2	主な項目の利用状況推移
2-2 市民活動シアター	P21	資料 3	情報関連業務利用状況推移
2-3 共同事務室（事務用ブース）	P22	資料 4	市民活動共同事務室利用状況
2-4 ロッカー、レターケース	P23	資料 5	貸室利用状況（部屋別集計）
2-5 パソコン、印刷機、コピー機	P25	資料 6	貸室利用時間（曜日・時間別集計）
3 情報の収集・提供	P27	資料 7-1	利用団体分野別集計
3-1 情報揭示等利用	P27	資料 7-2	フリースペース種別集計
3-2 団体情報の蓄積	P29	資料 8	団体情報ストック数 分野別集計
3-3 市民活動団体への情報提供	P30	資料 9	図書資料分類別冊数
3-4 図書の貸出	P31	資料 10	ホームページアクセス件数集計表
3-5 情報発信	P32	資料 11	「ぱれっと」発行状況
4 相談・問い合わせ対応	P36	資料 12	相談・問合せ対応記録集計表
5 交流・連携・その他	P44	資料 13	視察・見学等対応
5-1 外部組織との連携	P44	資料 14	サポートセンター業務運営体制
5-2 会議・研修	P46		
5-3 視察・見学対応	P48		
5-4 防災避難訓練	P49		
5-5 施設維持管理	P50		
6 事業報告	P51		
事業 1 情報収集提供事業	P53		
事業 2 相談事業	P59		
事業 3 人材育成事業	P65		
事業 4 協働に関する 理解促進及び機会創出事業	P71		
事業 5 調査研究事業	P77		

1. はじめに 総括

変化する社会状況の中で社会課題解決に取り組む多様な主体が活動しやすい環境をつくる

○仙台市市民活動サポートセンター運営基本方針

新型コロナウイルス感染拡大により、深刻な社会課題が発出している一方で、市民活動団体や、社会貢献活動に取り組む事業者等を取りまく状況も大きく変化している。5年の指定管理期間で掲げた「令和6年度(2024年度)には、年間50件程度の新しい活動やプロジェクトがサポートセンターの事業を通して生まれ、300人以上の担い手が参画し、課題を解決する新しい事業や仕組みが地域社会に実装されていく」との目標を達成するためには、このような状況下で、緊急を要する社会課題解決に取り組もうとする主体が活動しやすい環境をつくるのはもちろん、変化する社会状況の中で、市民活動や社会貢献活動の継続を模索している主体についても、活動しやすい環境をつくっていく必要がある。

令和3年度は、新たに課題解決に取り組もうとする主体も含めた活動者のニーズをより緻密に把握し、細かなメニューを提供するとともに、情報の受発信の強化と、課題の共有・議論する機会の提供により、社会課題解決に取り組む主体が活動しやすい環境をつくることを目指して、施設の運営・事業実施に取り組んだ。

○令和3年度の成果と課題

(1) 施設運営

①成果

年間利用団体数 826 団体

仙台市協働まちづくり推進プラン 2021

市民活動サポートセンターにおける市民活動支援

【数値目標】利用団体数を毎年度 720 団体以上とする → **達成**

新型コロナウイルス感染拡大の影響で発令された政府や市による感染対策に従いつつ、利用者の安全を確保しながら、利用の制限や自粛をお願いするサービスと、最低限継続するサービスとを随時、臨機応変に対応をした(P6～「○新型コロナウイルス感染症による影響」参照)

新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和2年度に大きく落ち込んだ貸室・フリースペースの利用団体(令和元年度 720 団体、令和2年度 357 団体)も、令和3年度には 404 団体が利用し、復調の兆しがみられる。令和3年度より集計を始めた、相談の利用団体数(個人も含む)は 548 件で、貸室・フリースペースの利用団体を上回っており、サポートセンターの役割が「場の提供」に限らないことを示している。

※重複利用があるため、貸室・フリースペースの利用団体数と相談の利用団体数の計は年間利用団体数を超える。

②課題

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から「新しい生活様式」への、転換が迫られる中、市民活動や協働の様式も変化していくことが考えられる。実際、サポートセンターでも、フリースペースや貸室の利用件数は令和元年度と比較して4割程度にとどまり、貸室の利用形態も「オンラインでの活動のため」という利用が出始めている。「多くの人が利用する施設」から「多様な利用の仕方ができる施設」へと、時代の変化に合わせた柔軟な支援様式を打ち出し続けていく時期に来ている。

(2) 情報収集提供事業

①成果

ブログの年間訪問者数(ユニークユーザー) 69,073 件

記事投稿数 399 件

仙台市協働まちづくり推進プラン 2021

市民活動サポートセンターにおける情報の収集・発信に関する支援

【数値目標】市民活動サポートセンターのブログの訪問者数を毎年度 40,000 件以上
投稿数を毎年度 250 件以上とする。 → **達成**

令和3年度は、前年度に引き続き、コロナ禍での市民活動を支援する助成金情報や、オンラインツールの紹介、困難を抱えている人のお役立ち情報、支援したい人が気軽に参加できるボランティア・寄付情報など、社会情勢に合わせた幅広い情報発信を行った。記事の投稿数は399件と前年度の404件から減ったものの、訪問者数(ユニークユーザー) 69,073 件(前年度比 120%)、閲覧数(ページビュー) 918,717 件(前年度比 118%)と、どちらも前年度を大きく上回った。

②課題

紙媒体(チラシ、ポスター、ニュースレターなど)の情報揭示利用件数は2,767件で、前年度2,297件(前年度比 120%)よりは増加したものの、新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度比 77%と減少した状態が続いている。特に大勢を集客するイベントの広報ツールとして利用されることが多いポスターは139件で、前年度124件(前年度比 112%)からの増加も鈍く、令和元年度の280件と比べて半数以下にとどまった。新型コロナウイルス感染拡大を受け、大勢を集めるイベント等の開催自粛が見られたことに加えて、イベントのオンライン移行により、ウェブによる情報発信に力を入れる団体も見られた結果、ポスターの受付が減少した状態が続いていると考えられる。

(3) 相談事業

① 成果

年間相談件数 845 件 (前年度比 124%)

うち活動相談 305 件 (前年度比 97%)

新型コロナウイルス感染拡大に関連した相談 43 件 (前年度比 36%)

サポートセンターの令和 3 年度年間目標

年間相談件数 900 件、うち活動相談 400 件 → 達成ならず

令和 3 年度の相談件数は 845 件（前年度 679 件、前年度比 124%）と増加したが、年間目標としていた 900 件にはあと一步及ばなかった。令和 3 年度の相談の内訳をみると、活動相談 305 件（前年度比 97%）、施設の利用問合せなどの窓口利用相談 345 件（前年度比 107%）、その他 195 件（前年度比 443%）と、その他が大幅に増加した。その他には、スタッフから団体へ声がけして話を聞いた情報共有などが含まれるため、団体との関係構築に力を入れたことが大幅な増加につながった。

新型コロナウイルス感染拡大に関連した相談は 43 件と、前年度の 120 件から 3 分の 1 ほどに減少した。コロナ禍が 1 年以上継続していることで、各団体が社会の変化に対応したことから新型コロナウイルス感染拡大に関連した相談が落ち着きつつあることがうかがえる。

活動相談について、相談者の属性別にみると、市民活動団体や教育機関、行政等からの相談が、前年度から減少した一方、町内会や企業からの相談は 2 倍前後に増加した。町内会や企業からの相談はもともとの件数が少ないものの、多様な属性からの相談が寄せられ始めている。特に企業からは、社会貢献活動に取り組みたい・他社の事例を知りたいという社会貢献活動に関する相談が寄せられた。

公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する仙台市起業支援センター「アシ☆スタ」主催の「起業・創業なんでも相談 DAY」に相談員として参加。年間 10 件の起業相談に対応した。ソーシャルビジネスや市民活動の起業相談だけでなく、営利・非営利問わず、起業を志す相談者の思いの整理などに対応した。

② 課題

活動相談が 305 件で前年度より 9 件減少、目標としていた 400 件の 4 分の 3 程度にとどまった。前年度より活動相談が減少した一因は、新型コロナウイルス感染拡大に関連した相談が 43 件と、前年度より 77 件減少したことがあげられる。令和 3 年度に関係構築を進めた団体から、活動の課題を聞き出し、活動相談へとつなげていくことが必要である。

(4) 人材育成事業

① 成果

事業参加を通して行動や活動に変化がもたらされた事例 84 件

サポートセンターの目標

事業参加を通して行動や活動に変化がもたらされた事例 5 年間で 100 件以上

令和 3 年度は、これまでの事業参加者へフォローアップ（事業参加後・相談後にどのような変化が起きたのか、どのような支援を必要としているかの確認）に力を入れた。その結果、これまでの事業参加後・相談後に行動や活動に変化がもたらされた事例が 84 件確認できた。

例 1 サポートセンター主催講座「はじめてのオンライン」（令和 2 年度実施）受講者

コロナ禍でメンバー同士のコミュニケーションが取りづらい状況であったため「はじめてのオンライン」を受講。受講をきっかけに団体の内部会議でオンラインを始めた。今後、新たにウェビナーやライブ配信などを活動に取り組みたいと考えているとの相談があり、継続対応中。

例 2 令和 2 年 5 月より相談対応中の団体

思いの整理、立ち上げ相談を経て、令和 2 年 11 月に NPO 法人化。法人化にあたって、申請書作成や所轄庁である NPO 認証係への取り次ぎなどサポートセンタースタッフが継続的に対応した。

例 3 令和 3 年 3 月より相談対応中の団体

サポートセンター機関誌『ぱれっと』の取材を契機に、団体の運営相談について継続して対応。これまでの活動を形として残す方法について相談を受け、せんだいメディアテークとの連携をコーディネート。結果、令和 4 年 3 月に冊子発行に至った。

② 課題

若者の人材育成に資する事業への協力として、宮城野区中央市民センターの若者社会参画型学習推進事業「まいぷろ」、仙台まちづくり若者ラボ、仙台若者アワードの実施協力を行ったが、企画段階から事業の実施に協力したというよりは、それぞれの主催者が企画した事業への当日の実施協力が中心となった。

（５）協働に関する理解促進及び機会創出事業

①成果

せんだい・みやぎソーシャルハブ オンライン情報交換会

11 回実施 のべ **128** 人参加

仙台市協働まちづくり推進プラン 2021

市民活動サポートセンターにおける事業者の社会貢献活動の促進

【数値目標】

事業者が他の主体と意見交換できる事業を毎年度実施する。 → **達成**

せんだい・みやぎソーシャルハブ オンライン情報交換会を全 11 回実施し、のべ 128 人が参加した。市民活動団体、起業家、個人事業主、大学関係者、市議会議員、行政職員などさまざまな立場の人が活発に意見交換を行う場を提供できた。

②課題

オンライン情報交換会の参加者が固定化されつつある。多様な主体による活発な意見交換を促すためには、もっと参加者が広がるような仕掛けが必要である。

（６）調査研究事業

①成果

せんだいみやぎソーシャルハブの事務局について協働による運営体制を継続した。また、社会課題を市民の手で調査分析・可視化するソーシャルラボ機能の運用を開始した。

企業ヒアリングを通し、情報技術の活用や DX（デジタルトランスフォーメーション）を利用してイノベーションを起こし、社会課題解決に取り組む手法への知見が深まった。

②課題

調査研究事業で得られた知見（オンライン情報交換会で共有された社会課題や企業ヒアリングで得られた知見など）について、ウェブサイト(note)による情報発信や調査研究事業報告書の公開にとどまっており、十分だとは言えない。今後、より開かれた手法による知見の市民への還元・共有について検討が必要。

○新型コロナウイルス感染症による影響

(1) 国・県の施策とガイドライン・施設開館状況

令和3年度の新型コロナウイルス感染症にかかる国・県の施策、市のガイドライン、市民活動サポートセンターの開館状況を以下に時系列でまとめた。

期間	特措法関連 (対宮城県)	宮城県独自	仙台市ガイドライン		市民活動 サポート センター
			改訂	施設への 制限等	
令和3年 3月26日～ 4月4日		宮城県・仙台市 緊急事態宣言	十五訂版	原則休館ま たは利用自 粛呼びかけ	3月27日 ～ 利用休止
4月5日～ 5月11日	まん延防止等 重点措置		十六訂版 十七訂版		
5月12日～ 6月13日		宮城県・仙台市 緊急事態宣言 (リバウンド防止 徹底期間)	十八訂版	実施可能な 感染防止策 等を考慮し た上で施設 ごとに利用 の休止等を 判断	通常開館
6月14日～ 8月11日		リバウンド防止 徹底期間	十九訂版 二十訂版		
8月12日～ 8月19日		宮城県・仙台市 緊急事態宣言	二十一訂版		
8月20日～ 8月26日	まん延防止等 重点措置		二十二訂版	原則 20 時 まで	20 時閉館
8月27日～ 9月12日	緊急事態宣言		二十三訂版	原則休館ま たは利用自 粛呼びかけ	8月30日 ～ 利用休止
9月13日～ 9月30日	まん延防止等 重点措置		二十四訂版	原則 20 時 まで	20 時閉館
10月1日～ 10月31日		リバウンド防止 徹底期間	二十五訂版	実施可能な 感染防止策 等を考慮し た上で施設 ごとに利用 の休止等を 判断	通常開館
11月1日～ 令和4年 1月31日			二十六訂版 二十七訂版		
2月1日～ 3月21日		緊急特別要請	二十八訂版		
3月22日～ 5月15日		再拡大防止期間	二十九訂版		

(2) ガイドライン

仙台市危機管理室発行の「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン」の発行日及び概要（ガイドライン暫定版発行時から令和4年3月末時点までの経緯を掲載。令和3年度についてはP8～P9に掲載）

発行日	版	施設の取扱いの概要／サポートセンターの運用	適用期間
令和2年 2月27日(木)	暫定版	適切な感染予防対策を講じて運営。 2月20日～3月9日の使用料全額返金	3月9日まで
2月29日(土)	改訂版	適用期間延長	3月31日まで
3月4日(水)	三訂版	適用期間の新規受付休止 フリースペースの利用休止	3月5日～ 3月31日まで
3月27日(金)	四訂版	適用期間延長	4月12日まで
4月8日(水)	五訂版	適用期間延長 サポートセンター4月11日～臨時休館 継続するサービスは18時まで ※継続するサービス 窓口、印刷作業室、事務用ブース、ロッカー、レターケース	5月10日まで
4月22日(水)	六訂版	利用の自粛を強く要請 使用料全額返金について、適用期間以降のものについても対象とする 継続するサービスは、4月25日～5月10日の間は17時まで	5月10日まで
4月30日(木)	七訂版	適用期間中は臨時休館 新規利用の受付休止（適用期間外も） やむを得ず利用する場合は予防対策の徹底を要請	5月31日まで
5月15日(金)	八訂版	適用期間中は施設ごとに休止を判断 施設ごとに予約受付の再開を判断 利用者に対して感染予防策の励行 サポートセンター6月1日～開館 フリースペースは休止 貸室の利用は定員の半数程度を要請 6月1日以降利用の貸室について5月18日より電話予約受付開始	5月31日まで
5月27日(水)	九訂版	業種別感染拡大予防ガイドラインに配慮し、適切な感染予防対策を徹底 サポートセンター 6月1日～窓口での貸室申込受付再開	当面の間
7月29日(水)	十訂版	施設の取扱い変更なし (市主催事業の定員についてのみ変更)	当面の間
8月27日(木)	十一訂版	施設の取扱い変更なし (市主催事業の定員についてのみ変更)	当面の間
9月17日(木)	十二訂版	サポートセンター 市民活動シアターの利用は、ガイドラインの〈催物開催の目安〉を基準に要請	当面の間
11月30日(月)	十三訂版	「寒冷な場面における新型コロナ感染防止等のポイント」を踏まえ換気・保湿に努める。 利用料は令和3年3月31日利用分まで全額返金（令和3年4月～9月利用分は令和3年3月31日まで申し出た場合のみ全額返金対象）	当面の間
令和3年 3月1日(月)	十四訂版	サポートセンター 市民活動シアターの使用料は、9月利用分まで全額返金	当面の間
3月25日(木)	十五訂版	3月26日以降、宮城県・仙台市緊急事態宣言発出期間中は原則休館または利用の自粛呼びかけ。同期間の使用料は全額返金。 サポートセンター3月27日～利用休止 既予約者に利用の中止を強く求める 原則17時閉館 5月31日利用分まで新規予約受付停止	当面の間

発行日	版	施設の取扱いの概要／サポートセンターの運用	適用期間
4月5日(月)	十六訂版	まん延防止等重点措置を実施すべき区域として指定されている期間中は原則休館または利用の自粛呼びかけ。同期間の使用料は全額返金。	当面の間
4月27日(火)	十七訂版	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためのイベント中止等に係る市民利用施設使用料については、令和3年9月30日までの利用分について、令和3年6月30日までにキャンセルを申し出た場合は、全額返金。	当面の間
5月8日(土)	十八訂版	適用期間中は、施設や利用者の特性、実施可能な感染防止策等を考慮した上で、施設ごとに利用の休止等を判断する。 宮城県・仙台市緊急事態宣言期間中においては、施設利用者に本市が主催する事業に準じた取り扱いを求め、チェックリストの活用や巡視等により、感染防止策のさらなる徹底を図るものとする。	当面の間
6月10日(木)	十九訂版	十八訂版の「宮城県・仙台市緊急事態宣言期間中においては」の記載が、宮城県・仙台市緊急事態宣言の解除およびリバウンド防止徹底期間の延長(7月11日まで)を受けて、「リバウンド防止徹底期間中においては」と改訂	当面の間
7月8日(木)	二十訂版	使用料返金対象となる取りやめ申請期間終了(6月30日取りやめ分まで)を受けて、使用料返金に係る記述削除。 施設利用者には市の主催事業に準じた感染対策を求める。リバウンド防止徹底期間中はチェックリストの活用など感染防止策を徹底。30分に1回以上の換気など、細かな訂正あり。	当面の間
8月12日(木)	二十一訂版	宮城県・仙台市独自の緊急事態宣言が発令されたことに伴う改訂。施設の取り扱いには変更なし。	当面の間
8月18日(水)	二十二訂版	まん延防止等重点措置を実施すべき区域として指定されている期間中は原則20時まで。 令和3年9月12日利用分までの感染症拡大防止のためのイベント中止等における施設使用料は全額返金。 サポートセンター 原則20時に閉館(日曜・祝日を除く) 期間中の20時以降の貸室の新規予約および市民活動シアターの夜間区分使用の受付を停止。 既予約者に対しては20時以降の利用の自粛を求める。	8月20日～ 9月12日まで

		1階・3階のフリー利用休止	
発行日	版	施設の取扱いの概要／サポートセンターの運用	適用期間
8月26日(木)	二十三訂版	緊急事態措置を実施すべき区域に指定されている期間中の市民利用施設については、原則休館又は利用自粛。 サポートセンター 8月30日～利用休止 既予約者に利用の中止を強く求める 原則17時閉館 9月30日利用分まで新規予約受付停止 ※継続するサービス 窓口、印刷作業室、事務用ブース、ロッカー、レターケース	8月27日～ 9月12日 ※施設の取扱い は8月30日より適用
9月10日(金)	二十四訂版	まん延防止等重点措置を実施すべき区域として指定されている期間中は原則20時まで。 令和3年9月30日利用分までの感染症拡大防止のためのイベント中止等における施設使用料は全額返金。 サポートセンター 二十二訂版に同じ	9月13日～ 9月30日まで
9月29日(水)	二十五訂版	施設利用者には市の主催事業に準じた感染対策を求める。リバウンド防止徹底期間中はチェックリストの活用など感染防止策を徹底。	10月1日～ 当面の間
10月26日(火)	二十六訂版	「チェックリストの活用」についての項目が削除。 サポートセンター 感染対策のお願いとしてチェックリストを引き続き活用。	11月1日～ 当面の間
11月24日(水)	二十七訂版	留意事項が11月22日宮城県発出の要請「イベント開催等における必要な感染防止策」の「基本的な感染対策」に拠る表現に変更。	11月25日～ 当面の間
2月2日(水)	二十八訂版	「チェックリストの活用」についての項目が復活。 サポートセンター チェックリストの活用は継続して実施していたが、二十八訂版に伴いチェックリストの一部文言が変更となったため、準拠し改訂した。	2月2日～ 当面の間
3月22日(火)	二十九訂版	大きな変更なし。感染拡大防止を理由として取り消す場合の施設利用料全額返金も当面の間継続。	3月24日～ 当面の間

(3) 施設対応

①休館等

・利用休止	令和3年3月27日(土)～5月11日(火) 令和3年8月30日(月)～9月12日(日)
・閉館時間の繰り上げ 20時閉館(日曜・祝日を除く)	令和3年8月20日(金)～8月29日(日) 令和3年9月13日(月)～9月30日(木)

②施設使用料の返金・使用料の減免

<u>新型コロナウイルス感染拡大防止を理由として利用を取りやめた施設の</u>	
	<u>使用料を全額返金</u>
・市民活動シアター	令和2年2月20日(木)～令和4年3月31日(木)
・その他の貸室	令和2年2月20日(木)～令和3年4月11日(日) 令和3年8月12日(木)～9月30日(木)

<u>市民活動シアターを収容率50%以内で利用の場合使用料を50%減免</u>	
・市民活動シアター	令和2年6月19日(金)～令和4年3月31日(木) 令和3年4月12日(月)～8月10日(火)利用分は 令和3年6月30日(水)までに取りやめた場合は返金対象

③サービスの休止

新型コロナウイルス感染対策のため利用を制限したサービスは以下の通り。

対象となるサービス	概要	適用期間
貸室の新規受付	休止	令和3年3月27日(土)～5月11日(火) 令和3年8月30日(月)～9月12日(日)
	20時以降の貸室の新規受付休止	令和3年8月20日(金)～8月29日(日) 令和3年9月13日(月)～9月30日(木)
貸室の利用	利用自粛要請	令和3年3月27日(土)～5月11日(火) 令和3年8月30日(月)～9月12日(日)
	20時以降の貸室の利用自粛要請	令和3年8月20日(金)～8月29日(日) 令和3年9月13日(月)～9月30日(木)

対象となるサービス	概要	適用期間
交流サロン 利用者パソコン	利用休止	令和3年3月27日(土)～ 5月11日(火) 令和3年8月30日(月)～ 9月12日(日)
	20時まで	令和3年8月20日(金)～ 8月29日(日) 令和3年9月13日(月)～ 9月30日(木)
相談業務 使用料還付手続き 各種使用料収納 チラシ受付	17時まで	令和3年3月27日(土)～ 5月11日(火) 令和3年8月30日(月)～ 9月12日(日)
	20時まで	令和3年8月20日(金)～ 8月29日(日) 令和3年9月13日(月)～ 9月30日(木)
印刷作業室	17時まで	令和3年3月27日(土)～ 5月11日(火) 令和3年8月30日(月)～ 9月12日(日)
	20時まで	令和3年8月20日(金)～ 8月29日(日) 令和3年9月13日(月)～ 9月30日(木)
事務用ブース ロッカー レターケース	17時まで	令和3年3月27日(土)～ 5月11日(火) 令和3年8月30日(月)～ 9月12日(日)
	20時まで	令和3年8月20日(金)～ 8月29日(日) 令和3年9月13日(月)～ 9月30日(木)

(4) 貸室等への影響

新型コロナウイルス感染防止を理由とする取りやめ・使用変更の影響は以下の通り。

※人数は申込時の使用予定人数より算出

※使用変更は別月へ使用変更したものが対象

使用予定月	取りやめ		使用変更		計	
	件数	予定人数	件数	予定人数	件数	予定人数
令和3年4月	70件	1,058人	53件	645人	123件	1,703人
5月	28件	419人	24件	379人	52件	798人
6月	15件	291人	4件	151人	19件	442人
7月	8件	267人	1件	30人	9件	297人
8月	24件	313人	16件	288人	40件	601人
9月	51件	820人	19件	285人	70件	1,105人
10月	5件	146人	2件	80人	7件	226人
11月	1件	35人	0件	0人	1件	35人
12月	3件	250人	0件	0人	3件	250人
令和4年1月	10件	199人	9件	191人	19件	390人
2月	51件	1,194人	15件	193人	66件	1,387人
3月	22件	397人	10件	115人	32件	512人
計	288件	5,389人	153件	2,357人	441件	7,746人

2. 場の提供

令和3年度の総利用件数は9,700件（前年度比1,324件増）、利用者総数は24,583人（前年度比3,776人増）であった。

情報利用者数（参考値）5,311人を加えた合計利用者数は、29,894人（前年度比3,714人増）となった。

総利用件数・人数ともに前年度より増加したが、利用休止・開館時間の短縮が影響し微増にとどまった。

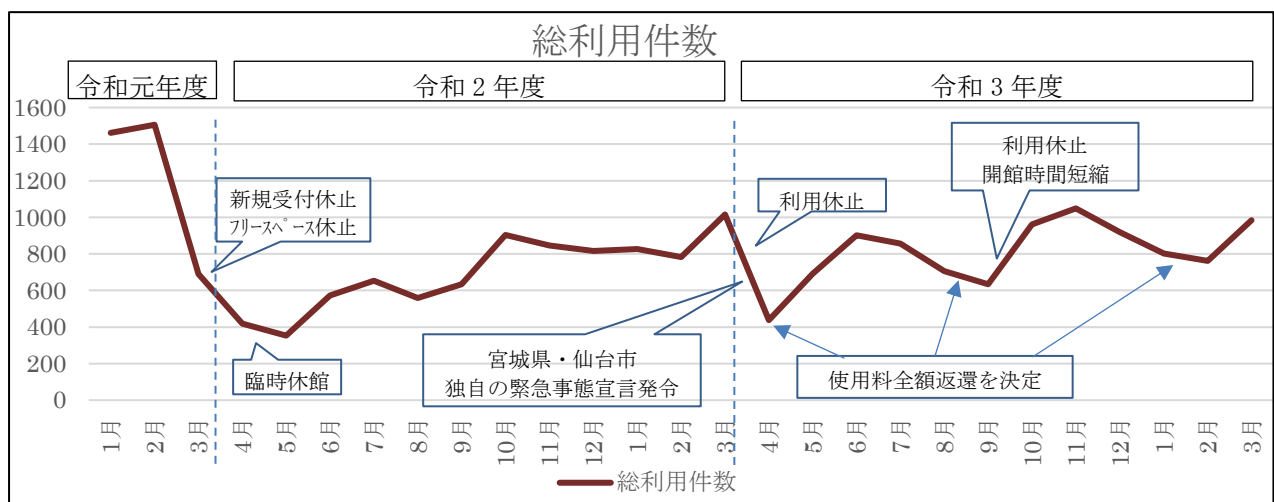
利用件数	件数（件）		
	R1年度	R2年度	R3年度
総利用件数	16,994	8,376	9,700

利用者数	人数（人）		
	R1年度	R2年度	R3年度
利用者総数	63,621	20,807	24,583
情報利用者数（参考値）	25,935	5,373	5,311
合計利用者数	89,556	26,180	29,894

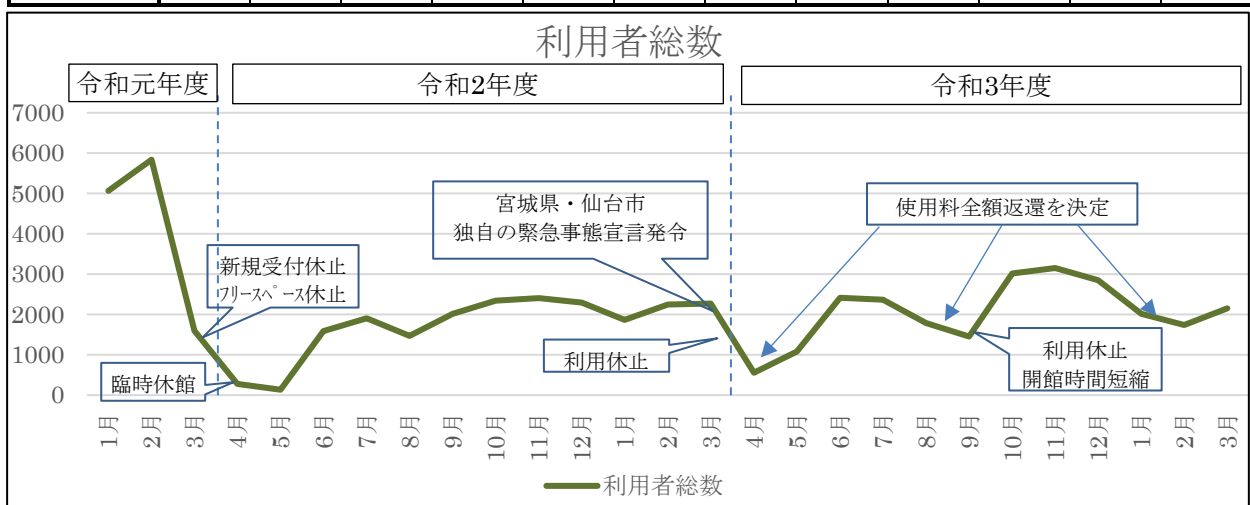
情報利用者数

1階のマチノワひろば利用者やチラシ、ニューズレターなどの情報を閲覧もしくは収集している方で、利用票にて集計されるイベントなどで利用している方やパソコン利用、図書の貸し出し利用者は含まない。

総利用件数（件）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30年度	1,553	1,588	1,570	1,525	1,444	1,718	1,712	1,524	1,324	1,455	1,553	1,623
R1年度	1,699	1,499	1,576	1,566	1,402	1,371	1,462	1,401	1,361	1,462	1,506	689
R2年度	418	353	572	653	558	633	904	846	815	827	782	1,015
R3年度	438	691	901	856	705	633	961	1,049	919	802	761	984
R3年度の 前年増減	20	338	329	203	147	0	57	203	104	▲25	▲21	▲31
R3年度の 前年対比	104.8%	195.8%	157.5%	131.1%	126.3%	100.0%	106.3%	124.0%	112.8%	97.0%	97.3%	96.9%



利用者総数 (人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30年度	5,338	5,166	5,828	6,059	4,994	5,782	5,971	6,104	5,527	4,735	6,414	6,887
R1年度	5,497	4,862	6,373	6,033	5,196	6,021	5,024	6,545	5,572	5,066	5,837	1,595
R2年度	277	134	1,589	1,905	1,466	2,014	2,338	2,409	2,293	1,869	2,246	2,267
R3年度	558	1,080	2,416	2,368	1,785	1,453	3,015	3,152	2,848	2,018	1,741	2,149
R3年度の 前年増減	281	946	827	463	319	▲561	677	743	555	149	▲505	▲118
R3年度の 前年対比	201.4%	806.0%	152.0%	124.3%	121.8%	72.1%	129.0%	130.8%	124.2%	108.0%	77.5%	94.8%



利用件数 (件)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
貸室	59	105	188	202	142	97	220	217	194	150	143	189
フリースペース	14	84	165	174	127	82	185	224	184	165	191	224
印刷機利用	30	31	41	26	26	20	27	50	34	32	26	40
パソコン利用	0	4	6	8	7	5	12	14	17	5	8	13
情報揭示受付	150	242	231	289	238	277	337	330	303	246	223	267
相談	30	73	105	68	67	62	84	80	82	69	50	75
来訪者	0	0	1	4	2	0	0	1	3	2	2	5
総利用件数	283	539	737	771	609	543	865	916	817	669	643	813

利用者数 (人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
貸室	511	813	1,866	1,850	1,384	1,169	2,445	2,504	2,328	1,511	1,255	1,498
フリースペース	14	182	397	432	314	194	474	558	424	421	425	550
相談	33	85	152	77	82	90	96	88	88	82	59	93
来訪者	0	0	1	9	5	0	0	2	8	4	2	8
利用者総数	558	1,080	2,416	2,368	1,785	1,453	3,015	3,152	2,848	2,018	1,741	2,149

2-1. 貸室、フリースペース

令和 3 年度の利用件数・利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた前年度と比較すると回復傾向にあるが、変異株の発現による感染者再拡大を受け微増にとどまった。前年度に引き続き実施されたサービスの利用休止、開館時間の短縮等（P10～P11「○新型コロナウイルス感染症による影響（3）施設対応」参照）による利用制限もあり、コロナ禍以前の利用数には程遠いが、「新しい生活様式」が浸透したこと、オンラインでの活動などのために貸室を利用する団体がみられることから（ウェブ会議やオンライン配信などを目的とした貸室利用は、明確なもので令和 3 年度 36 件）、利用目的の変化も増加につながったと予測される。

貸室とフリースペースを合わせた諸室の総利用件数は 3,725 件（前年度比 327 件増）、総利用人数は 23,519 人（前年度比 3,613 人増）。令和 3 年 3 月 27 日～5 月 31 日の利用休止および新規利用申込停止、8 月 20 日～9 月 30 日の開館時間短縮の他、定員の半数での利用要請、フリースペースのテーブル減などの措置もあり、件数・人数ともに微増となった。

諸室利用件数・人数		件数 (件)	人数 (人)
H30 年度 諸室利用計		9,682	67,578
R1 年度 諸室利用計		8,816	62,645
R2 年度 諸室利用計		3,398	19,906
R3 年度	貸室計	1,906	19,134
	交流サロン計	1,819	4,385
	諸室利用計	3,725	23,519
前年度比		110%	118%

平成 27 年より提供していた Free Wi-Fi について、令和 3 年度に接続環境の改善を行った。令和 3 年度の利用総数は 1,435 件、利用率は 40%となった。部屋別ではセミナーホールが 55%と高く、他貸室でも 30～40%前後の利用がある（集計一覧：資料 7-3「Free Wi-Fi の利用集計」参照）。

Wi-Fi 利用	利用件数 (件)	利用率
貸室	579	32%
交流サロン	824	50%
市民活動シアター	32	45%
利用総数	1,435	40%

Wi-Fi 環境改修は令和 3 年 9 月完了、10 月本格運用開始。

また、各貸室に LAN ケーブルを 2 本設置（令和 3 年 5 月 18 日）、無線・有線選択可能としたことで貸室でのウェブ会議や配信などのニーズに幅広く対応できるよう環境整備を行った。

施設を利用した団体総数は、令和 3 年度より「相談」「ロッカー・レターケース・ブース」の利用団体を加えて 826 団体となった。前年度と集計方法を同じくした統計では 404 団体となる（前年度比 47 団体増）。内訳をみると市民活動シアター・交流サロンの利用団体数の増加が目立つ一方で、貸室利用団体数は微増にとどまった。

施設利用団体数		H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度
施設利用団体 総数		903	720	357	826 (404)
内訳	セミナーホール・研修室	441	417	257	263
	市民活動シアター	80	60	16	36
	交流サロン	598	423	148	207
	相談	—	—	—	548
	ロッカー・レターケース・ブース	—	—	—	115

重複利用があるため、内訳の各利用団体数の計と利用団体総数は一致しない。
 令和 3 年度の（ ）内は、前年度と同様に集計した。

利用回数が多い順に 50 団体を対象とした団体種別は、「相談」「ロッカー・レターケース・事務用ブース」の利用団体を含むもので

利用団体種別 (相談・ロッカー・レターケース・事務用ブースを含む)	団体数 上位50	利用団体種別 (相談・ロッカー・レターケース・事務用ブースを含まない)	団体数 上位50
子ども・社会教育	10	子ども・社会教育	12
福祉	9	福祉	9
人権・ジェンダー	9	国際交流・協力	5
学生団体	5	学生団体	5
医療・健康・スポーツ	5	医療・健康・スポーツ	5
まちづくり	5	震災復興支援	3

は「子ども・社会教育」「福祉」「人権・ジェンダー」「学生団体」「医療・健康・スポーツ」「まちづくり」が多く、前年同様の集計を行った場合は「まちづくり」が外れる。前年度は「国際交流・協力」「福祉」「子ども・社会教育」「医療・健康・スポーツ」「市民活動支援」が多かったが、令和 3 年度は「国際交流・協力」「市民活動支援」が外れた。前年度減少した「学生団体」の利用が再び増加した理由については、学外での活動が制限されていることから、新たな活動拠点として交流サロンが使われている傾向があるのではないと思われる。

貸室の利用団体種別については、令和 3 年度は「子ども・社会教育」「福祉」「国際交流・協力」が上位団体となり、順位の変動はあるものの前年度と変わりなかった。

交流サロンの利用団体種別は、目的の多様性から毎年変動が見られる。令和 3 年度は前年度から「福祉」「国際交流・協力」が外れ、「医療・健康・スポーツ」「学生団体」が入った。

貸室利用団体種別	団体数 上位50
子ども・社会教育	13
福祉	10
国際交流・協力	9

交流サロン種別	団体数 上位50
子ども・社会教育	14
医療・健康・スポーツ	6
学生団体	5
福祉	5
国際交流・協力	5

相談種別では「福祉」「まちづくり」「その他」が上位に入った。「その他」については、個人での相談や、分野が定まらない相談などが分類されている結果、このような順位となった。

相談種別	団体数 上位50
福祉	8
まちづくり	7
その他	6

ロッカー・レターケース・ブースの利用団体種別は「子ども・社会教育」「医療・健康・スポーツ」「文化・芸術」が多くを占める。ロッカー・レターケース・ブースの使用は「サポセンを拠点として活動している」ことを意味することから、貸室利用以外でサポートセンターを主な拠点として活動する団体の種別がここから見て取れる。

ロッカー・レタケ・ブース種別	団体数 上位50
子ども・社会教育	21
医療・健康・スポーツ	13
環境	13
文化・芸術	12

■貸室

貸室（地上階）では、令和3年度は1,835件（前年度1,854件）、16,372人（前年度16,075人）で、使用率は66%（前年度64%）。市民活動シアターも含めた合計は1,906件（前年度1,880件）、19,134人（前年度16,875人）で、使用率は60%（前年度56%）であった。令和3年度もコロナ禍による利用休止、開館時間短縮の施策がなされたため、前年度に比べ大きな変化は見られなかった。前年度7%まで落ち込んだ市民活動シアターの利用件数が令和3年度は20%まで回復したが、その他の貸室については微増にとどまった。

件数は前年度比101%増、人数は113%増となった。利用休止・開館時間短縮などあったものの、コロナ禍も2年が経過し、利用者の中で「リアルでの活動からオンライン上の活動への移行、併用」の動きが見られ、ウェブを介しての会議や配信のために貸室を利用する団体が増えたことが令和3年度の特徴といえる（令和3年度貸室でのWi-Fi利用数579件、オンラインイベント利用36件）。

貸室利用状況	R2年度（開館日数 335日）			R3年度（開館日数 335日）		
	件数	人数	使用率	件数	人数	使用率
セミナーホール	232	5,369	53%	244	5,592	60%
研修室1	346	1,815	70%	336	1,825	71%
研修室2	450	3,003	78%	443	2,999	80%
研修室3	228	1,287	54%	206	1,122	52%
研修室4	265	1,155	62%	273	1,264	64%
研修室5	333	3,446	65%	333	3,570	70%
地上階貸室計	1,854	16,075	64%	1,835	16,372	66%
市民活動シアター	26	800	7%	71	2,762	20%
合計	1,880	16,875	56%	1,906	19,134	60%

臨時休館/利用休止中は貸室の利用自粛を求めたが、希望すれば利用可能であったため開館日数としてカウント

月別の動向をみると、令和3年度は5月11日までの利用休止後、6月～8月にかけて利用件数・利用人数ともに徐々に回復したが、8月～9月の利用休止を受け9月は減少に転じた。その後オミクロン株流行の影響で1月～2月は微減、3月は利用が回復した。

貸室件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30年度	247	244	252	249	227	256	262	261	233	227	261	280
R1年度	253	240	266	259	224	252	228	266	242	234	253	117
R2年度	27	9	163	213	172	195	201	211	188	157	182	162
R3年度	59	105	188	202	142	97	220	217	194	150	143	189
R3年度の 前年増減	32	96	25	▲11	▲30	▲98	19	6	6	▲7	▲39	27
R3年度の 前年対比	219%	1167%	115%	95%	83%	50%	109%	103%	103%	96%	79%	117%

令和2年4月11日～5月31日臨時休館 令和3年3月27日～5月11日利用休止 8月30日～9月12日利用休止

貸室 利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30年度	3,712	3,631	3,994	4,413	3,291	3,927	4,169	4,449	4,131	3,466	4,671	4,770
R1年度	3,821	3,501	4,621	4,424	3,699	4,592	3,590	4,884	4,185	3,774	4,309	1,279
R2年度	191	67	1,425	1,742	1,367	1,793	1,912	1,866	1,782	1,465	1,635	1,630
R3年度	511	813	1,866	1,850	1,384	1,169	2,445	2,504	2,328	1,511	1,255	1,498
R3年度の 前年増減	320	746	441	108	17	▲624	533	638	546	46	▲380	▲132
R3年度の 前年対比	268%	1213%	131%	106%	101%	65%	128%	134%	131%	103%	77%	92%

令和2年4月11日～5月31日臨時休館 令和3年3月27日～5月11日利用休止 8月30日～9月12日利用休止

貸室申込件数は5月11日までの利用休止・新規申込停止解除後の6月以降増加するものの、9月30日まで新型コロナウイルス感染拡大防止理由の取りやめについて使用料が全額返金だったこともあり、取りやめ件数は243件となった。前年度の6割程度には減少したが、コロナ禍前は年に30件弱であったことを考えると、集まることに対して利用者が慎重になっている傾向はまだ続いていると思われる。

貸室 申込件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度 計
H30年度	197	173	167	174	176	186	179	193	185	177	206	225	2,238
R1年度	192	170	167	199	168	190	185	172	190	206	178	116	2,133
R2年度	48	26	204	164	142	174	148	141	121	147	145	146	1,606
R3年度	82	114	144	147	156	113	540	169	141	163	129	178	2,076
R3年度の 前年増減	34	88	▲60	▲17	14	▲61	392	28	20	16	▲16	32	470

貸室 取りやめ 件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度 計
H30 年度	3	1	1	5	0	3	0	3	4	1	2	4	27
R1 年度	8	2	1	3	3	4	5	2	3	2	15	84	132
R2 年度	170	78	14	11	24	22	10	4	5	20	7	49	414
R3 年度	51	19	6	10	44	22	1	6	5	33	36	10	243
R3 年度の 前年増減	▲119	▲59	▲8	▲1	20	0	▲9	2	0	13	29	▲39	▲171

貸室全体の年間使用時間計は前年度より 750 時間増の 6,438 時間となった。(集計一覧：資料 5「貸室利用状況(部屋別集計)」参照) 曜日・時間別集計では前年度に引き続き土曜日・日曜日の利用が多く、水曜日の利用が少ない。また 17 時以降の利用が少ない傾向も変わらない(集計一覧：資料 6「貸室利用時間(曜日・時間別集計)」参照)。

■フリースペース

交流サロンは、新型コロナウイルス感染防止のため令和 3 年 3 月 27 日～5 月 11 日まで利用休止となった。利用再開後も前年度に続き 9 テーブル 40 席で運用した。このため、令和 3 年度のフリースペース利用は、件数 1,819 件(前年度比 301 件増)、人数 4,385 人(前年度比 1,354 人増)となった。件数ではコロナ禍前の 1/3、人数は 1/4 程度にとどまった。

フリースペースの利用	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度
利用件数	5,280	6,683	5,982	1,518	1,819
利用人数	14,683	18,954	15,966	3,031	4,385

フリースペース 利用件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30 年度	526	509	606	578	544	591	601	566	489	454	589	630
R1 年度	591	510	603	580	542	510	522	495	484	476	556	113
R2 年度	39	23	45	32	22	87	175	228	210	172	238	247
R3 年度	14	84	165	174	127	82	185	224	184	165	191	224
R3 年度の 前年増減	▲25	61	120	142	105	▲5	10	▲4	▲26	▲7	▲47	▲23
R3 年度の 前年対比	36%	365%	367%	544%	577%	94%	106%	98%	88%	96%	80%	91%

フリースペース 利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30年度	1,527	1,427	1,735	1,568	1,635	1,655	1,708	1,573	1,328	1,175	1,603	2,020
R1年度	1,578	1,278	1,648	1,501	1,409	1,365	1,369	1,586	1,304	1,231	1,438	259
R2年度	45	25	96	63	42	130	342	453	416	340	548	531
R3年度	14	182	397	432	314	194	474	558	424	421	425	550
R3年度の 前年増減	▲31	157	301	369	272	64	132	105	8	81	▲123	19
R3年度の 前年対比	31%	728%	414%	686%	748%	149%	139%	123%	102%	124%	78%	104%

フリースペースには事務用ブースの利用件数・利用人数も含まれるため、交流サロン休止中も0にはならない。

交流サロンの利用形態では、前年度に引き続き件数・人数ともにスタンダードスペースの利用が多かった。以前は利用頻度の高かったアクティブスペースのテーブル数を減らしていること、比較的多い人数（6名）で利用できることが要因とみられる（集計一覧：資料7-2「交流サロン種別集計」参照）。

■施設における新型コロナウイルス感染対策 ＊令和3年度に新たに実施

	実施内容	実施期間
館内	アルコール消毒液の設置	以前より恒常的に実施
	アルコール消毒液ディスペンサーを自動噴霧タイプに変更	令和2年7月5日(日)～
	給湯室利用中止、茶器貸出中止	令和2年3月5日(木)～
	印刷機利用団体へ清掃用具貸出	令和2年3月5日(木)～
	非接触型体温計の設置・貸出	令和2年6月5日(金)～
	交流サロンへ清掃用具設置	令和2年9月1日(火)～
	飛沫防止パネルの貸出	令和2年10月5日(月)～
	貸出用検温器の増加（1本→6本）	＊ 令和4年2月10日(木)～
窓口	貸出備品の除菌	令和2年3月5日(木)～
	窓口にビニールカーテン取付	令和2年4月9日(木)～
	交流サロン、印刷作業室、利用者パソコン等の利用者に連絡先カード提出依頼	令和2年9月1日(火)～
	「感染対策のお願い」窓口にて依頼（書面）	＊ 令和3年7月10日(土)～
掲示	注意喚起文の掲示（健康安全課からの依頼）	令和2年1月28日(火)～
	外国語の注意喚起文の掲示 （健康安全課からの依頼）	令和2年1月29日(水)～
	チラシラックに注意喚起掲示（一度手にしたチラシをラックに戻さないように）	令和2年6月1日(月)～
	厚生労働省接触確認アプリ「COCOA」案内掲示	令和2年6月19日(金)～
	喫煙所に注意喚起掲示	令和2年11月17日(火)～
市民活動シアター	市民活動シアターCOVID-19 ガイドライン作成・配布	令和2年7月15日(水)～
	入場時整列用足形シール設置	令和2年8月12日(水)
	CO2濃度測定器の設置	＊ 令和3年9月30日(木)～

2-2. 市民活動シアター

市民活動シアター（以下、シアター）の令和3年度（開館日 335 日）利用状況は、利用日数 68 日、利用時間 470 時間、利用率 20%と前年度を上回った。利用人数も 2,762 人と前年度より伸び、例年の 3 割程度にまで回復した。

利用状況	R1 年度	R2 年度	R3 年度
利用日数	105	25	68
利用時間	900	193	470
利用率	31%	7%	20%
利用人数	8,429	800	2,762

令和3年5月11日～令和4年3月31日まで定員の半数以下での利用については使用料減額の措置が取られた。

曜日別利用状況	月	火	水	木	金	土	日	年間
利用件数	2	7	6	7	8	21	20	71
内自己使用件数	1	2	4	1	2	0	0	10
R3 年度年間利用率	4%	14%	21%	14%	16%	41%	39%	21%
R2 年度年間利用率	2%	4%	3%	12%	10%	12%	10%	8%

1 日に複数の利用がある場合があるので、利用件数は、利用日数を上回る。

利用件数は 71 件（うち自己使用 10 件）、年間利用率は 21%だった。土日と平日で利用が分散した前年度と比べ、令和3年度は土日に利用率が上がり、例年の傾向が戻ってきた。

利用団体数は前年度比 20 団体増の 35 団体、内訳は表の通り。使用内容に対して団体種別が固定化されず分散しているのが傾向として見られる。また令和3年度はリハーサルを含むダンスイベント開催（71 件中 26 件）、シアターを利用したの配信イベント（使用目的で「撮影・録音・配信」には分類されていないが利用の具体的な内容に「配信」「オンライン」等の記載がある利用を含む。明確なもので 13 件）が多くみられたのが特徴的であった。

利用団体種別	団体数			使用内容	開催件数			
	R1 年度	R2 年度	R3 年度		R2 年度	割合	R3 年度	割合
NPO	16	1	9	シンポジウム・講演会	6	19%	5	7%
愛好会・グループ	18	9	11	交流イベント	3	9%	8	11%
市民劇団	6	2	2	演劇	3	9%	3	4%
実行委員会	5	1	2	コンサート	4	13%	15	21%
教室	3	0	1	上映会・展示会等	1	3%	11	15%
企業	7	2	3	発表会	5	16%	3	4%
各種団体	1	0	3	リハーサル(稽古)	3	9%	19	26%
個人	3	0	4	仕込・撤収	1	3%	1	1%
利用団体合計	59	15	35	撮影・録音・配信	5	16%	8	11%
自己使用	1	1	1					
合計	60	16	36					

使用内容は、複数回答にて集計。

令和2年度は「撮影・録音・配信」は「その他」として分類。

2-3. 共同事務室（事務用ブース）

◆第23期事務用ブース入居団体◆（承認期間：令和3年9月～令和4年8月）

令和4年3月末時点

- ・ブース No.1 一般社団法人 仙台eスポーツ協会
- ・ブース No.5 NPO 法人水・環境ネット東北

事務用ブースは、第22期（承認期間：令和2年9月～令和3年8月）では継続して4団体が入居していたが、令和3年5月で期間満了につき2団体が退去。令和3年2月より新規に1団体が入居したが事務所移転のため同年8月をもって退去し、第23期（承認期間：令和3年9月～令和4年8月）は2団体の入居でスタートした。その後二次募集が2月入居募集と4月入居募集の2回行われたが新規入居団体はなく、令和4年3月末時点での入居は2団体。うち1団体は令和5年1月、1団体は令和5年8月をもって入居期間満了となる。

利用状況は件数・人数ともに前年度の半分程度まで減ったが、貸室利用団体と同じく、団体の活動がオンラインでの集まりも併用するなど、工夫された結果と伺える。

事務用ブース利用状況	R2 年度	R3 年度
利用件数	332 件	167 件
利用人数	523 人	245 人

（1）情報交換会

前年度に引き続き感染予防対策を徹底したうえで、入居団体が個々に持つ資源や情報を入居団体同士で交換するための「情報交換会」を実施した。令和3年度は、6月と12月に開催。6月、12月ともに入居団体に加え過去に入居していた団体にも声がけし、情報交換および今後の活動の方向性、コロナ禍での施設運営状況についての説明を行った。

□令和3年6月17日(木)

- ・入居団体3団体、過去入居団体1団体 計4名、
市民協働推進課1名、サポートセンタースタッフ2名
- ・団体より活動報告と今後の予定、情報交換・交流、次期募集について、施設運営の説明など

□ 令和3年12月16日(木)

- ・入居団体2団体、過去入居団体2団体 計5名、
市民協働推進課1名、サポートセンタースタッフ3名
- ・団体より活動報告と今後の予定、情報交換・交流、施設運営の説明など

2-4. ロッカー、レターケース

ロッカー、レターケースは第23期（承認期間：令和3年9月～令和4年8月）の募集を行った。募集数は、大16台・中28台・小60台。応募数が設置台数を超えなかったため、1団体2台まで利用可（ただし、台数の少ない大の2台使用は不可）として二次募集を行った。

令和3年度のロッカー年間平均使用率は全体では69%、内訳は大

100%・中87%・小53%となり、大は全て利用されている状態を維持したが、中・小ともに使用率は下がった。期間途中での取りやめが令和3年度は6件（前年度は1件）継続利用を希望されない団体は8団体見受けられたが、コロナ禍を受けて活動の停止・休止が理由として挙げられていた。

レターケースの平均利用率は51%と前年度に続き減少しており（令和3年度取次件数1,424件、令和2年度1,476件、令和元年度1,990件）これはメールやオンラインでのやりとりが普及した結果、ニーズが変化したのが要因と思われる。

年平均利用状況		R2 年度	R3 年度	年度差
ロッカー 利用状況 (利用率)	大	100%	100%	0
	中	91%	87%	▲6pt
	小	63%	53%	▲16pt
	全体	76%	69%	▲18pt
レターケースの利用状況 (利用率)		54%	51%	▲3pt
レターケース 取次件数	郵便（件）	1,405	1,359	▲46
	FAX（件）	71	65	▲6

ロッカー 種別	設置数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 利用率
大	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	53%
中	28	25	25	25	25	25	24	24	24	24	24	24	24	87%
小	60	34	34	33	33	33	31	31	31	31	29	29	29	100%
計	104	75	75	74	74	74	71	71	71	71	69	69	69	69%
月次利用率		72%	72%	71%	71%	71%	68%	68%	68%	68%	66%	66%	66%	

レターケース 利用数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 利用率
設置数 168	85	85	85	85	86	85	85	85	86	86	86	86	51%
月次利用率	51%	51%	51%	51%	51%	51%	51%	51%	51%	51%	51%	51%	

レターケース 取次件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均 件数
郵便	137	138	140	81	92	82	88	125	91	128	95	162	1,359	113
FAX	4	4	14	2	1	2	3	4	5	2	17	7	65	5
計	141	142	154	83	84	84	91	129	96	130	112	169	1,424	119

■活動報告書

ロッカー、レターケース利用団体には年 2 回、事務用ブース利用団体には年 4 回活動報告書を提出していただいている。提出された活動報告書は、サポートセンター3 階の情報サロンで、市民が閲覧できるように公開している。同じく 3 階で公開されている「団体情報ファイル」が市民活動団体のアーカイブとして、現在の活動状況に関わらず団体情報がストックされている一方で、活動報告書は、現在活動していることが確実な団体の情報を探している市民等に活用されている。

また、活動報告書に記載された団体の課題などに基づき、サポートセンターから必要な情報（例えば、助成金情報や組織運営課題解決のための講座の情報など）を提供している。

令和 3 年度に提出された活動報告書の内容からは、令和 3 年度はビデオ会議システムの利用やオンラインイベントなど「新たな活動形態」が見られるようになった。一方で「活動を休止しているため報告する内容がない」という理由で報告書提出が遅れる事例もあった。

提出方法については、郵送・メールが大半を占めた前年度と比べ、来館時に窓口で提出する団体が増えてきている。

【ロッカー・レターケース利用団体】

①第 22 期 令和 3 年 3 月～令和 3 年 8 月分→9 月提出締め切り

対象：104 団体

②第 23 期 令和 3 年 9 月～令和 4 年 2 月分→3 月提出締め切り

対象：102 団体

【事務用ブース入居団体】

①第 22 期 令和 3 年 3 月～令和 3 年 5 月分→6 月提出締め切り

対象：5 団体

②第 22 期 令和 3 年 6 月～令和 3 年 8 月→9 月提出締め切り

対象：3 団体

③第 23 期 令和 3 年 9 月～令和 3 年 11 月→12 月提出締め切り

対象：2 団体

④第 23 期 令和 3 年 12 月～令和 4 年 2 月→3 月提出締め切り

対象：2 団体

2-5. パソコン、印刷機、コピー機

■パソコン

令和3年度の利用者パソコン利用は、前年度比22件増の99件にとどまった。二度にわたるサービス利用休止、1台稼働での運用という状況下ではあったが、大きな影響は見られない。

パソコン 利用状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
合計	1,064	900	738	70	99

利用者PC 利用件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30年度	81	80	83	84	79	75	80	65	59	69	65	80
R1年度	90	95	88	57	33	57	77	52	58	49	74	8
R2年度	0	0	0	0	0	4	1	13	13	9	7	23
R3年度	0	4	6	8	7	5	12	14	17	5	8	13
R3年度の 前年増減	0	4	6	8	7	1	11	1	4	▲4	1	▲10
R3年度の 前年対比	令和2年度利用休止のため 前年対比(%)は非表示					125%	1200%	108%	131%	56%	114%	57%

■印刷機

令和3年度の印刷機利用件数は383件（前年度比32件増）、枚数391,725枚（前年度比57,832枚増）となった。活動の休止・自粛が続く中で紙媒体からデジタルへの移行が進んだこと、また令和4年2月24日より設置を1台とした状態でも、現状大きな変動はない。「情報受付」のイベントチラシの受付件数も回復した（集計一覧：資料3「情報関連業務利用状況推移」参照）。

印刷機 利用状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
利用件数(件)	1,040	1,064	954	351	383
利用枚数(枚)	1,052,835	1,041,908	946,636	333,893	391,725

印刷機 利用件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30年度	140	113	80	88	76	95	90	76	71	64	84	87
R1年度	128	106	87	84	59	80	90	82	67	68	62	41
R2年度	30	27	30	32	26	28	40	41	17	26	20	34
R3年度	30	31	41	26	26	20	27	50	34	32	26	40
R3年度の 前年増減	0	4	11	▲6	0	▲8	▲13	9	17	6	6	6
R3年度の 前年対比	100%	115%	137%	81%	100%	71%	68%	122%	200%	123%	130%	118%

印刷機 利用枚数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
H30 年度	167,612	108,395	72,648	110,242	68,662	78,477	79,663	73,127	61,313	60,309	77,476	83,984
R1 年度	120,542	99,421	66,211	81,644	57,897	73,680	97,838	91,675	77,069	52,260	55,653	72,746
R2 年度	35,022	26,771	23,677	26,614	24,882	31,000	34,723	31,926	24,455	26,791	17,911	30,121
R3 年度	31,980	41,392	42,677	25,402	27,662	17,332	29,242	83,024	23,124	27,892	18,469	23,529
R3 年度の 前年増減	▲3,042	14,621	19,000	▲1,212	2,780	▲13,668	▲5,481	51,098	▲1,331	1,101	558	▲6,590
R3 年度の 前年対比	91%	155%	180%	95%	111%	56%	84%	260%	95%	104%	103%	78%

印刷物の内訳をみると、ニューズレター・チラシともに前年度より増加しており、団体活動の再開の表れとも推察できる。利用者に広まりつつあるオンラインでの広報・会議などデジタルへの移行は今後さらに進むと予測されるが、一定数の需要は見受けられるため今後の動向を注視したい。

印刷機	印刷物の内訳		
	チラシ	ニューズレター	その他
4 月	1	5	25
5 月	5	8	19
6 月	8	11	22
7 月	4	6	16
8 月	10	8	10
9 月	3	11	6
10 月	9	8	10
11 月	18	12	23
12 月	15	7	14
1 月	11	7	15
2 月	10	6	12
3 月	8	11	22
計	102	100	194
R2 年度	89	85	185

■コピー機

コピー機の利用枚数はコロナの影響で激減した前年度をさらに下回り、3,126 枚であった。通常は貸室やフリースペース、印刷機と同時に利用されることが多いコピー機だが、令和 3 年度は貸室・フリースペース利用件数が増加に転じる中、コピー機利用枚数は減少となった。ペーパーレスが進んでいると思われる。

コピー 利用状況	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	4
利用枚数(枚)	9,081	10,217	13,614	4,789	3,126

3. 情報の収集・提供

3-1. 情報揭示等利用

市民活動団体のチラシ、ポスター、ニューズレターなど情報揭示利用累計件数は、2,767 件で、前年度比 120%と大幅に増加した。背景には、コロナ禍における感染症対策が定着したことで、安全対策を施した上でのイベント開催の増加、オンラインでのイベント開催が増加したことが考えられる。種別に前年度比を見てみると、ポスター112%、チラシ 142%、ニューズレター98%。ニューズレターは、前年度に続き、令和 3 年度も減少が続いた。また、チラシ・ポスターも前年比では増加したが、依然としてコロナ禍以前の件数を下回った。これはコロナ禍が長期にわたる中で、ウェブによる情報発信が常態化してきた結果、紙媒体での情報発信自体が減少傾向にあると考えられる。コロナ禍が収束した後でもこの傾向は変わらないと予測される。

情報揭示等利用件数	R1 年度	R2 年度	R3 年度
チラシ	2,161	1,134	1,610
ポスター	280	124	139
ニューズレター	1,159	1,039	1,018
計	3,600	2,297	2,767

「市民活動イベント掲示板～仙台に情報の背骨を通すプロジェクト～」は、令和 2 年 10 月から、「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト（通称：骨プロ）」をリニューアルした。受け付けた市民活動団体のイベントチラシ画像をサポートセンターのホームページ上に掲示し、希望により各連携施設への配送も行うこととしている。

令和 3 年度の市民活動イベント掲示板サービスは、令和 3 年 4 月から 5 月 11 日までの期間と、8 月 27 日から 9 月 12 日までの期間、新型コロナウイルス感染拡大による市内公共施設の臨時休館にとも

掲示板利用件数	R1 年度	R2 年度	R3 年度
年度計	763	163	366

R2 年度は「市民活動イベント掲示板」の令和 2 年 10 月～令和 3 年 3 月の利用件数

ない、連携施設への配架受付を休止。ただし、ホームページ上への掲示は継続したことから、利用件数は前年度の 2.2 倍に増加した。新しい生活様式や施設の臨時休館等、様々な社会情勢に即した情報の受発信支援につながることができた。

種別ごとの利用状況は、ホームページ掲載のみ希望 87 件（24%）、配架のみ希望 53 件（14%）、ホームページ掲載＋各連携施設への配架双方を希望 226 件（62%）だった。前年度は 6 か月間のみの数字のため比較はできないが、ホームページ掲載のみ希望 41 件（25%）、各連携施設への配架のみ希望 13 件（8%）、ホームページ掲載＋各連携施設への配架双方を希望 109 件（67%）と、同じような割合の結果となった。ウェブ媒体を持たない団体や、ウェブによる情報発信を不得手としている団体の情報発信支援につながっていることから、引き続き運用を継続していく。

■骨プロ（市民活動イベント掲示板）参加施設 （令和4年3月末時点10施設）

連携団体は、チラシの配架と施設ホームページ内に「市民活動イベント掲示板」のリンクバナーを設置

せんだいメディアテーク

日立システムズホール仙台

施設改修工事のため「市民活動イベント掲示板」のリンクバナーを施設ホームページに設置という形で参画していたが、令和3年10月5日より施設でのチラシ配架受付を開始した。

エル・パーク仙台

エル・ソーラ仙台

仙台市ボランティアセンター

のびすく仙台

のびすく泉中央

のびすく長町

せんだい環境学習館 たまきさんサロン

仙台市市民活動サポートセンター

3-2. 団体情報の蓄積

団体情報は、サポートセンターに持ち込まれたチラシを保存し蓄積してきたもので、サポートセンター利用者を軸にした市民活動団体の情報である。これらのファイルは、市民活動団体の活動状況のアーカイブとしての機能を果たしている。

令和4年3月末時点での団体情報ストック数は県内外あわせ 4,918 団体で、前年度から 20 件増加した。なかでも「健康・医療・スポーツ」、「人権・ジェンダー」、「文化・芸術」の分野が4件ずつ増加。新型コロナウイルス感染拡大の影響が長期にわたり続く社会情勢の中にあっても、サポートセンターにチラシを持ち込む新たな団体や、新しく生まれた活動は、少しずつではあるが増えていることがうかがえる。

分野	情報利用 *1			
	団体数	構成比	県内	県外
福祉	560	12%	478	80
健康・医療・スポーツ	493	10%	417	76
環境	629	13%	438	191
まちづくり	622	12%	549	73
子ども・教育	627	13%	507	120
人権・ジェンダー	383	8%	276	107
国際交流・協力	346	7%	217	129
文化・芸術	727	15%	639	88
市民活動支援	342	7%	107	235
その他	189	4%	151	37
計	4,918	100%	3,782	1,136
R2 年度累計蓄積数	4,898		3,762	1,136
前年度比	100%		101%	100%

*1 情報利用：団体情報の蓄積数

3-3. 市民活動団体への情報提供

サポートセンターでは、市民活動に役立つ情報をテーマごとに編集した「市民活動お役立ち情報」を利用者向けに提供している。これは館内のチラシラックに配架し、自由に持ち帰ることができるほか、ホームページからもダウンロードできるようにしている。

令和3年度は「市民活動お役立ち情報」の内容の改訂やレイアウトの変更、利用団体のニーズに合わせたテーマの統廃合などの作業を進めた。令和4年4月より順次、改訂した内容へ変更していく。

■ 市民活動お役立ち情報（令和3年度時点）

No.	テーマ
1	NPO ってなんだろう？
2	チラシ・ポスターを置けるスペース
3	市民活動団体が利用できる機材一覧
4	仙台市内ホールマップ
5	ボランティア相談窓口
6	助成金のいろは
7	規約の作り方
8	報告書の作り方
9	メディア活用大作戦
10	名義後援って、どうやって受けるの？
11	チラシを作るコツ
12	イベント実施ノウハウ
13	企画書作成の方法とポイント

3-4. 図書の貸出

令和3年度の図書貸出件数は71件（前年度比134%）、貸出冊数は116冊（前年度比161%）だった。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和3年5月11日までの間、および8月30日から9月12日までサポートセンターが利用休止となったことから図書貸出を休止していたが、貸出件数・冊数ともに前年度より増加した。また、例年ならば地元史などまちづくり関連の書籍の貸出が多い傾向にあるが、令和3年度はまちづくり関連の書籍は貸出件数が伸びず、年間を通して、ファシリテーションやアイスブレイクの入門書、会計や広報など市民活動において実践的に役立つ書籍の貸出が伸びた。また、サポートセンター主催事業に関連した福祉や人権・ジェンダー、環境問題の書籍を展示したことで貸出件数が伸びた。

図書登録者数 貸出件数	R1 年度	R2 年度	R3 年度
登録者数（人）	28	13	17
貸出件数（件）	97	53	71
貸出冊数（冊）	129	72	116

■ 図書の展示のテーマ

月1回、展示内容を変更し、本を通じて様々な分野の課題や活動に触れてもらう機会をつくってきた。展示する書籍の選定は、社会情勢に加え、マチノワギャラリー・マチノワひろば展示内容や「ぱれっと」掲載団体に関連したもの、「マチノワフライデー」「いづいっちゃんねる」等の主催事業のテーマに関連したものとし、書籍をきっかけに他事業への関心を高めてもらえるよう工夫した。

月	展示内容 「 」内はマチノワギャラリー等の利用団体名
4 月	福祉、地域活動事例、地元学に関するもの
5 月	まちづくり、復興支援、環境問題、国際協力に関連するもの
6 月	復興支援、防災、LGBT など「Anego」に関連するもの
7 月	「仙台駆け込み寺」、障害者スポーツ、資金調達に関連するもの
8 月	「仙台駆け込み寺」、「仙台に夜間中学をつくり育てる会」に関連するもの
9 月	防災、ローカルメディア、LGBT など「AROW」に関連するもの
10 月	貧困、ローカルメディア、LGBT など「AROW」に関連するもの
11 月	防災、ローカルメディア、エイズ等に関する知識普及啓発など「やろっこ」に関連するもの
12 月	寄付活動、環境問題、ローカルメディアに関連するもの
1 月	ローカルメディア、「仙台 JOCS」、国際協力に関連するもの
2 月	新着図書、ローカルメディア、防災、「YARVOG」に関連するもの
3 月	新着図書、復興支援、「3.11 オモイデアーカイブ」に関連するもの

※マチノワギャラリー、マチノワひろばの展示内容、ぱれっとの掲載内容については

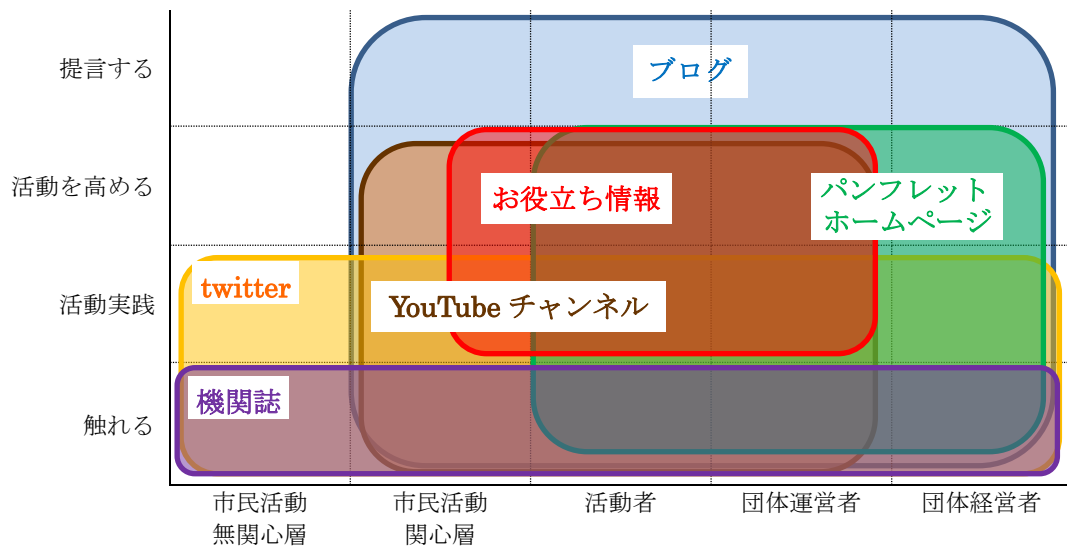
P55「6 事業報告 事業1 情報収集提供事業 実施概要」参照

3-5. 情報発信

より多くの方へサポートセンターの情報や市民活動、協働によるまちづくりに関する情報を届けるため、対象を市民活動無関心層から団体経営者層まで5段階に分け、情報発信を行っている。

令和2年8月に開設した公式YouTubeチャンネル「サポセンちゃんねる」や、令和2年10月に運用を開始した「市民活動イベント掲示板」など、コロナ禍の新しい生活様式に対応できるオンラインツールが、サポートセンター利用者を中心に少しずつ認知されてきている。

また、これまでサポートセンターが培ってきた広報戦略のノウハウは、広報に課題を抱える他機関にも役立てられている。生涯学習支援センターが主催する、市民センター職員等を対象としたスキルアップ研修では、「広報講座」の依頼を受けており、令和3年度で7回目となった。講座に出向くことで、他機関にサポートセンターの機能や連携の窓口をPRすることにもつながっている。



(1) サポートセンター通信『ぱれっと』の発行

市民活動無関心層から団体経営者層まで幅広い対象に、多様な主体の協働によるまちづくり事例や活動参加への一歩につながる情報に触れ、興味関心を高めてもらうことを目指し、フリーペーパーのスタイルで発行した。

令和3年度は、協働の取り組みを3件紹介。ほかにも長引くコロナ禍だからこそ「何か力になりたい」「まちを明るくしたい」と立ち上がった活動や、形になった成果物などを掲載した。また、「ワクワクビト」では若者文化の中でもこれまで取り上げたことのなかった分野に関連した人物を紹介（マニアックな話題を扱うウェブメディア編集長、編み物やセクシュアリティに関する動画発信を行うYouTuber、ヒップホップ文化を盛り上げる理容師、eスポーツのプロプレイヤーなど）。メインターゲット層である大学生～40代の幅広い興味に触れるような紙面づくりを目指した。（集計一覧：資料11「サポートセンター通信『ぱれっと』発行状況」参照）。

『ぱれっと』コーナー名	概要
ワクワクビト	仙台の街をワクワクさせる人物をワクワクビトとして紹介。 「人」に焦点をあて、その活動内容への思いや取り組む社会課題を発信。
協働	企業、NPO、行政、商店街、教育機関などがコラボレーションし、地域の課題解決や魅力向上に取り組む事例を紹介。
市民活動 突撃レポート	市民活動団体について紹介。
今、私にできること	災害時などに立ち上がった取り組みの事例紹介。
お役立ち本	サポートセンター図書コーナーから活動に役立つ本を紹介。
コトハジメ	「地域のために何かしたい、何か始めたい」という人たちのはじめの一步になる活動を紹介。
活動に+ (プラス)	活動をレベルアップさせられるようなイベントなどを紹介。
募集して☐	市民活動やボランティアを支えるヒト、モノ、コトなど募集中の情報を掲載。
このたびカタチになりまして	記念誌や調査報告、MAP や書籍など活動の成果物を紹介。
私のあしあと	サポートセンターの事業参加者による体験談等
気になる○○	読者自身が今気になっている社会課題や実践しているちょっと社会にイイコト等を投稿し、他者の一步を後押し。

(2) ホームページの管理

ホームページでは、サポートセンターの機能紹介と事業に関する告知等を行った。ユニークユーザーは20,777件（前年度19,608件。前年度比106%）。ページビューは98,757件（前年度95,659件。前年度比103%）と、ほぼ横ばいとなった。（集計一覧：資料10「ホームページ アクセス件数集計表」参照）。

ホームページでよく見られるページについて、前年度は施設の臨時休館や利用制限にともない「貸室の案内」や「施設へのアクセス方法」のページが多く閲覧されていたのに対し、令和3年度は「イベント・講座の案内」のページ閲覧数が増加した。理由として、前年度から継続してきたサポートセンター事業（いづいっちゃんねる、せんだい・みやぎソーシャルハブ等）の知名度アップが挙げられる。ブログやツイッターとも連携しながら積極的に広報を続けてきた成果が、着実にホームページへの誘導にもつながった。

(3) ブログの管理

サポートセンターの日常的な情報発信ツールとして、主催事業の告知や実施報告、市民活動情報、3月には東日本大震災の伝承や復興に関連した情報などを掲載した。

令和3年度は、前年度に引き続きコロナ禍での市民活動を支援する助成金情報、オンラインツールの紹介、困難を抱えている人のお役立ち情報、支援したい人が気軽に参加できるボランティア・寄付情報等、多様なニーズに対応するための情報発信を行った。また、楽しみながら社会課題を知ることができる催しや、社会情勢下で関心が高まっている取り組みなど、市民活動に関心があっても動いていなかった人に行動してもらえるような情報収集・発信に力を入れた。これを受けて、訪問者数（ユニークユーザー）前年度比120%、閲覧数（ページビュー）前年度比118%と、どちらも前年度を上回った。ブログについて、サポートセンターを利用している市民活動団体からは、「いつもチェックしている」「助成金情報を知り応募するきっかけになった」「活動を紹介してくれたことから参加者が増えた」等の声が届いた。

訪問者数が多い記事は、サポートセンターの事業「いづいっちゃんねる」や機関誌「ぱれっと」でたびたび紹介している団体の活動紹介の記事や、「いづいっちゃんねる」の広報記事、「ぱれっと」の取材日記、DVの相談窓口の紹介記事などだった。

事業者の社会貢献活動の紹介件数は、ぱれっとの取材やブログの取材を通じて9件掲載。また、伴走相談を行ってきた様々な団体の発表の場や、サポートセンター事業で関わりがあった団体の活動現場に、スタッフが直接足を運び、取材した記事を15件公開した。サポートセンターと市民活動団体との関係性構築に大きな役割を果たした。

前年度に引き続き市民ライターの活躍の場としても活用。2名の市民ライターが「いづいっちゃんねる」の視聴レポートを寄稿した。

日々変化する社会状況や、臨時休館などのイレギュラーにも対応できる計画的な運用と、鮮度の高い情報発信を続けていくための体制整備やノウハウ蓄積を引き続き行っていく。

ブログ投稿記事数およびアクセス数			
R3 年度	記事数	訪問者数 (ユニークユーザー)	閲覧数 (ページビュー)
4 月	32	5,513	62,964
5 月	36	5,934	71,191
6 月	40	5,834	75,150
7 月	35	5,699	74,034
8 月	37	5,951	70,221
9 月	34	7,084	79,799
10 月	32	4,356	75,140
11 月	37	5,399	72,783
12 月	28	6,324	85,313
1 月	30	5,847	78,451
2 月	27	5,024	74,407
3 月	31	6,108	99,264
計	399	69,073	918,717
R2 年度	404	57,491	777,079

(4) twitter の管理

休館日案内、ホームページ、ブログの更新状況等、サポートセンターからのお知らせを拡散させるため twitter を運用した。

フォロワー数は、前年度 3 月末は 450 人強だったのに対し、令和 4 年 3 月末には 662 人まで増加。市民活動団体や、ぱれっとの掲載団体だけでなく、キーワードからつながった様々な市民が反応し、各自の SNS で発信することで、情報が拡散された。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からも、オンラインでのつながりや情報拡散が一般化してきており、ますます SNS の重要度は増していくものと考えられる。

(5) YouTube チャンネルの管理

市民活動や協働に関する情報を広く発信することで、市民活動のすそ野を広げ協働の理解促進を図るとともに、市民活動団体等の活動や企業等における社会貢献活動等を支援するために運用した。

令和 3 年度は、過去サポートセンター事業のアーカイブ動画や、協働に関する動画を広く発信。令和 3 年 8 月 18 日に公開した動画「はじめての協働」は令和 4 年 3 月末時点で 136 回視聴された。同動画を twitter で紹介したところ、県外の市民活動支援センターから「わかりやすくまとまっていて、勉強になりました」というコメントと共にリツイート拡散された。その他、TOHOKU360 とサポセンが協働で行うインターネット配信番組「いづいっちゃんねる」を再生リストへ随時追加し、視聴を促した。

令和 4 年 3 月末現在の動画数は 3 本。チャンネル登録者数は、令和 4 年 3 月末現在 20 人（前年度 3 月末 8 人）。

いつでも、どこでも、何度でも、市民が情報を知りたいと思ったタイミングで視聴してもらえる強みを生かしながら、より間口を広げていくために、少しずつ動画の種類を増やしていく。

4. 相談・問い合わせ対応

(1) 目的

市民活動支援施設として、①施設の活用を含めた利用相談(施設利用)、②市民活動に関わる情報発信及び収集支援(施設サービス)、③専門性を要する市民活動を行う上での個別の運営等の相談(活動相談)を実施し、個人から団体、行政や企業など幅広い主体者に対し、情報の提供や経営相談など専門的な幅広い支援を行う。

(2) 概要

施設開館時間内に、予約の有無を問わず、市民活動に関わる相談を無料にて実施する。主に窓口にて行う施設利用判断や市民活動団体の情報提供と、NPO 法人の立ち上げや団体運営や資金調達など個別の事案に対して、窓口や電話を問わず相談対応する個別対応がある。

(3) 集計方法に関して

相談事業の集計項目は、相談者主体については、市民（個人）、市民活動団体、町内会、企業（営利組織）、大学（教育機関）、行政、その他に分類。また、対応内容については、自立、連携、創発、情報、その他に分類した。集計結果については次の3種類の方法で行っている。

① 相談サマリー

貸室利用やチラシ配架など、施設利用の問合せを【窓口】、活動内容や運営相談などを【相談】、これらに当てはまらない対応を行った場合に【その他】、事業参加者の所属を集計する【事業】に分類。事業参加者の意見も合わせて記録することにより、利用者サービスの向上に役立てている。ただし、センター事業に複数回参加した場合はカウントされないため、各事業参加者の総数と相談サマリーにおける【事業】集計は一致しない。

② 相談集計結果【主訴－相談主体】

上述の相談サマリーのうち【相談】について、相談主体の属性と相談主訴を詳細に集計した。自立・連携・創発の理念に基づいた12項目と細かい分類を行うことで、相談主体の状況に合わせた対応記録と、より具体的な相談の傾向を把握し、相談ニーズの分析を目指した。

横軸の【伴走】については、サポートセンター事業「伴走型相談による個別相談」該当候補の相談に関して、新規相談もしくは継続対応について集計した。

③ 相談集計結果【内容－相談者】（複数選択あり）

例えば、NPO 法人と協働する団体が同席した対応や、団体の立ち上げ相談の内容から助成金の相談に移行した場合など、複数の属性や内容を集計していなかった。そこで、対応した全ての内容・相談者を記録し、かつ複数選択を含めることで、柔軟に対応する集計を行った。

(4) 成果

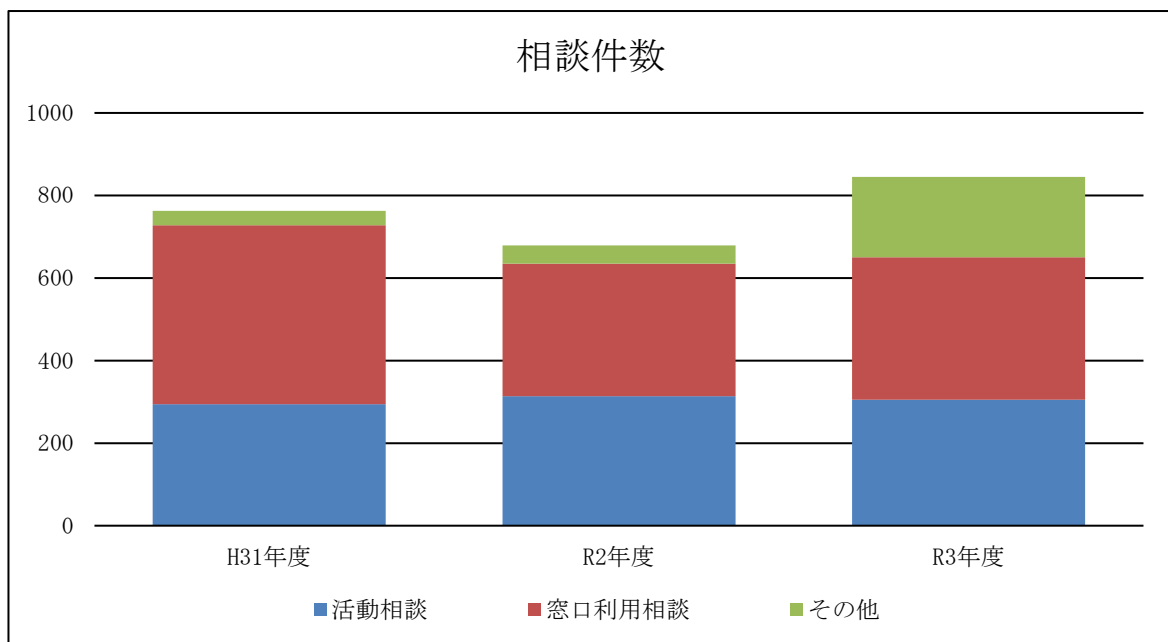
① 相談件数

令和 3 年度の相談件数は 845 件（前年度 679 件、前年度比 124%）と大幅に増加した。また新型コロナウイルス感染拡大前の平成 31 年度の 763 件と比較し 111%と増加した。

相談の内訳は、「活動相談（相談）」は 305 件、「窓口利用相談（窓口）」は 345 件、「その他」195 件だった。（集計一覧：資料 12-1 参照）

相談全体の件数は以下の表の通り。

相談種別	R2 年度		R3 年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
活動相談	314 件	46%	305 件	36%	97%
窓口利用相談	321 件	47%	345 件	41%	107%
その他	44 件	6%	195 件	23%	443%
相談全体	679 件		845 件		124%



「活動相談」については前年度の 314 件からわずかに減少したが、「窓口」と「その他」が増加した。「窓口」の利用相談は前年度から 24 件増加し、「その他」は 151 件増加した。

令和 3 年度の相談件数の増加には「その他」の相談が前年度よりも件数・割合共に大幅に増加したことがあげられる。令和 3 年度は事業参加者・相談者のフォローアップに重点を置いており、令和 3 年度に限らずこれまでのサポートセンターの事業に参加した方、立ち上げや活動について相談に来た方の変化をヒアリングで積極的に拾うように心がけていたこともあり増加につながった。

「窓口」相談は施設利用の回復に伴い少しずつ増加をしているが、新型コロナウイルス感染拡大前とは差がある。

活動相談の中で「新型コロナウイルス感染拡大」に関連した相談は43件と活動相談全体の14%であった。前年度の120件（314件のうちの38%）からは件数、割合共に大幅に減少した。相談の具体的な内容としては、来館時にコロナ禍の中でどのように活動を継続しているのかをヒアリングしたものが主であり、コロナ禍2年目を迎える中で、活動をしてもいいのか、この状況がいつまで続くのか、という不安や悩みを依然として抱えていることが分かった。一方で、サポートセンターに広報の協力依頼や、活動の立ち上げの相談もあり、新たな活動方法に着手したり、新たな活動を始めたりする団体も出始めている。

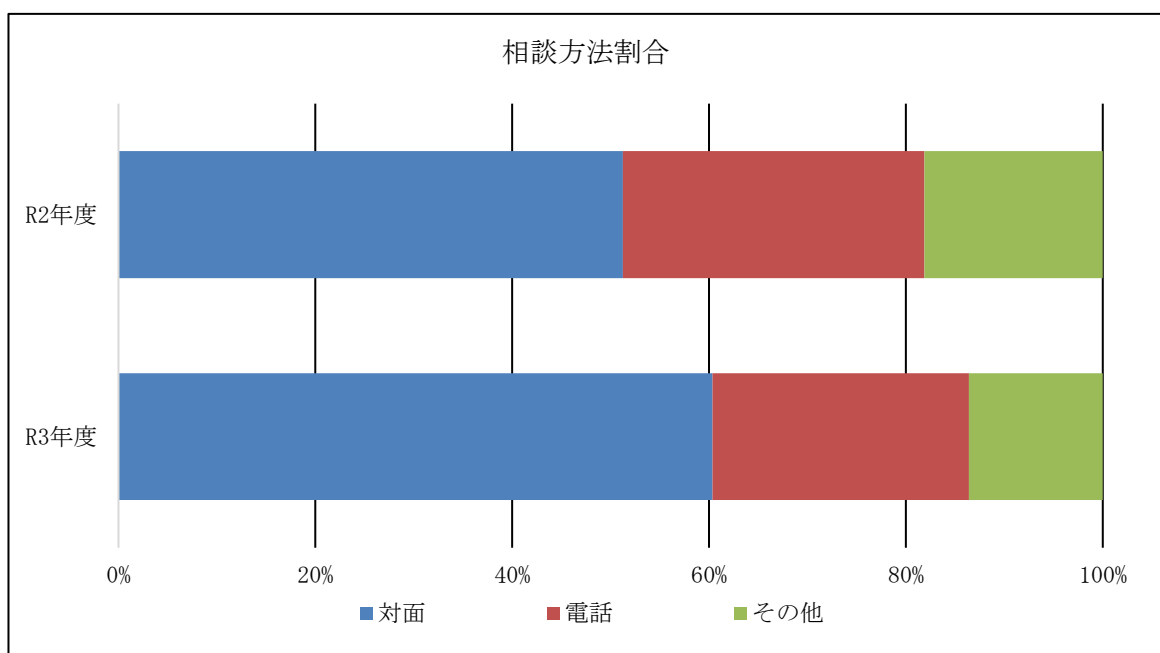
「その他」の相談内容の中で新型コロナウイルス感染拡大に関連する内容は19件あげられた。オンラインの活用などに取り組んだ事例や、本来の活動とは別の新たに見えてきた社会課題に取り組み始めた事例もあった。

② 相談手段

「対面」での相談は510件（前年度372件、前年度比147%）、「電話」での相談は220件（前年度208件、前年度比106%）、お問い合わせフォームやオンラインでの相談、スタッフによる情報収集などの「その他」が115件（前年度123件、前年度比93%）であった。

相談手段別にみた相談件数は以下の表の通り。

相談手段	R2 年度		R3 年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
対面	348 件	51%	510 件	60%	147%
電話	208 件	31%	220 件	26%	106%
その他	123 件	18%	115 件	14%	93%
全体	679 件		845 件		124%



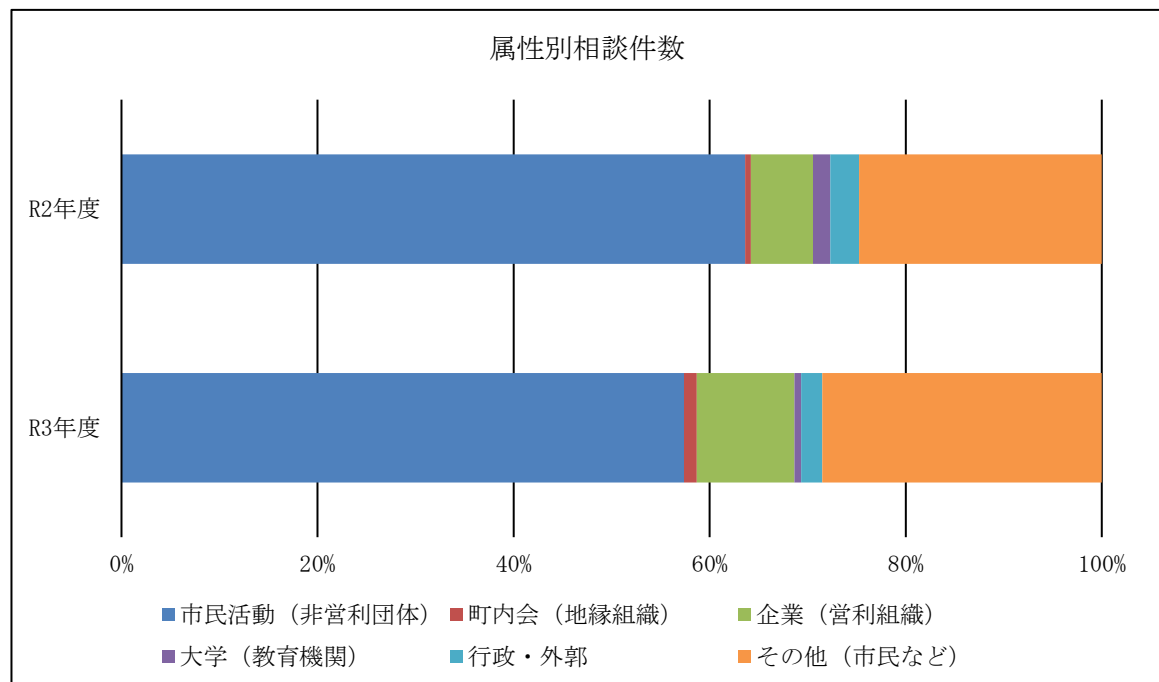
コロナ禍での生活が常態化したこともあり「対面」での相談は前年度よりも増加した。
「その他」には、地域づくりパートナープロジェクト推進助成の事前相談の際、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン会議ツールを利用した対応などが含まれる。

③ 相談者の属性

「市民活動（非営利団体）」が 485 件（前年度比 112%）、「町内会（地縁組織）」が 11 件（前年度比 275%）、「企業（営利組織）」が 84 件（前年度比 210%）、「その他（市民など）」が 241 件（前年度比 143%）と増加したが、「大学（教育機関）」は半分の 6 件（前年度比 43%と減少し、「行政・外郭」が 18 件（前年度比 90%）とほぼ横ばいであった。

相談全体での属性別の具体的な数字は以下の表の通り。

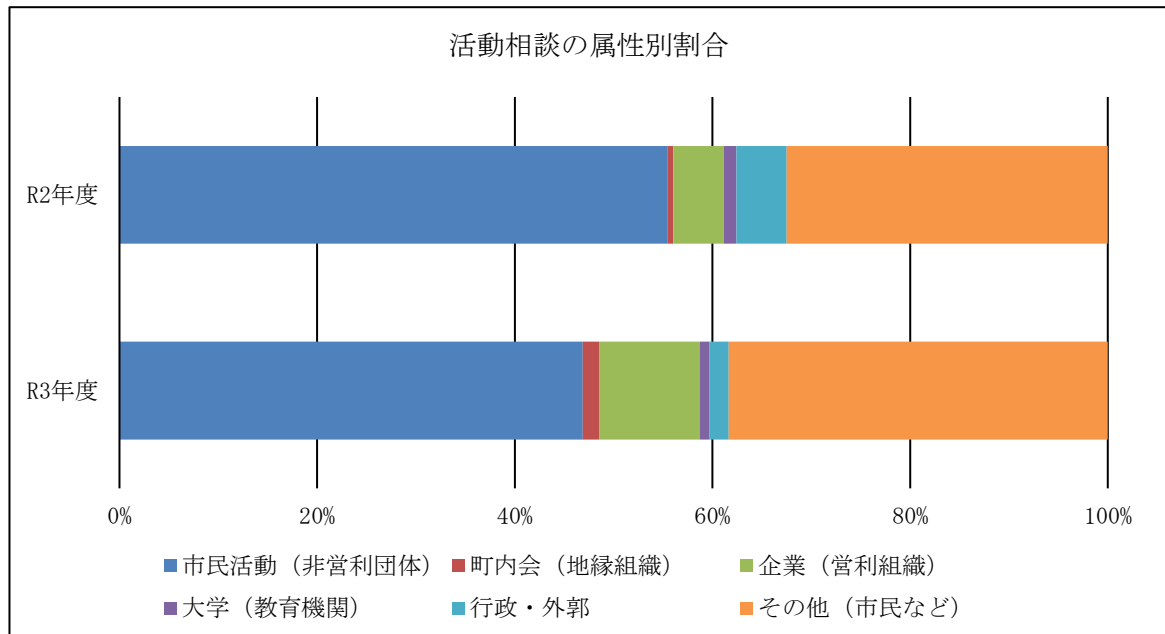
属性	R2 年度		R3 年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
市民活動（非営利団体）	432 件	64%	485 件	57%	112%
町内会（地縁組織）	4 件	1%	11 件	1%	275%
企業（営利組織）	43 件	6%	84 件	10%	195%
大学（教育機関）	12 件	2%	6 件	1%	50%
行政・外郭	20 件	3%	18 件	2%	90%
その他（市民など）	168 件	25%	241 件	29%	143%
全体	679 件		845 件		124%



④ 活動相談における属性別相談件数

活動相談における属性別の相談件数は以下の表の通り。

属性	R2 年度		R3 年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
市民活動（非営利団体）	174 件	55%	143 件	47%	82%
町内会（地縁組織）	2 件	1%	5 件	2%	250%
企業（営利組織）	16 件	5%	31 件	10%	194%
大学（教育機関）	4 件	1%	3 件	1%	75%
行政・外郭	16 件	5%	6 件	2%	38%
その他（市民など）	102 件	32%	117 件	38%	115%
全体	314 件		305 件		97%



「企業（営利組織）」からの相談が増えた要因として、社会貢献活動に取り組むために何から始めたらいいか、他の企業で行っている事例を知りたいという相談が寄せられたことが挙げられる。一方で地域づくりパートナープロジェクト推進助成の事前相談で市民活動団体との協働についての相談も見られた。

⑤ 相談主訴

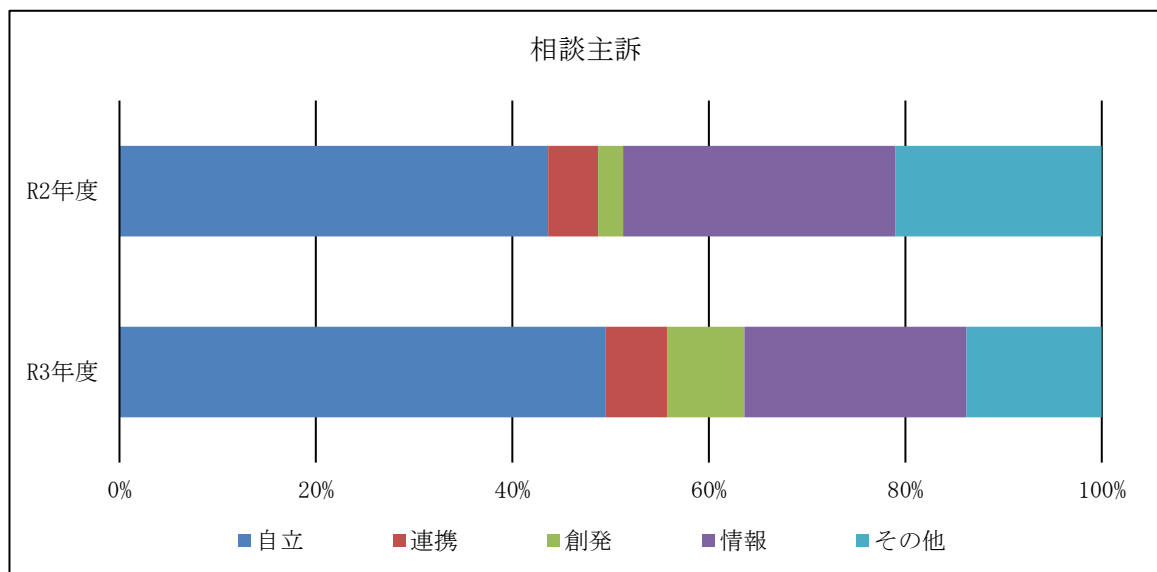
主訴は平成 28 年策定の「協働によるまちづくりの推進のための基本方針」であげられた「自立」「連携」「創発」の 3 つに「情報」「その他」を加えた 5 つに分類している。「自立」は活動の立ち上げに向けた想いの整理や、組織の運営についての相談。「連携」は多様な主体との協働についての相談。「創発」は政策の提言や制度の利用についての相談。「情報」ではサポートセンター利用者が情報収集として制度や活動などを情報収集。「その他」は何かしら

の課題を抱えた当事者からの相談やサポートセンターへの視察、またここまであげたものに当てはまらないものを選択する際に使われる。

活動相談の中では「自立」段階が 151 件と最多であった。「連携」は 19 件、「創発」が 24 件、「情報」が 69 件、「その他」が 42 件となった。(集計一覧：資料 12-2 参照)

相談主訴それぞれの件数は以下の表の通り。

主訴	R2 年度		R3 年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
自立	137 件	44%	151 件	50%	110%
連携	16 件	5%	19 件	6%	119%
創発	8 件	3%	24 件	8%	300%
情報	87 件	28%	69 件	23%	79%
その他	66 件	21%	42 件	14%	64%
全体	314 件		305 件		97%



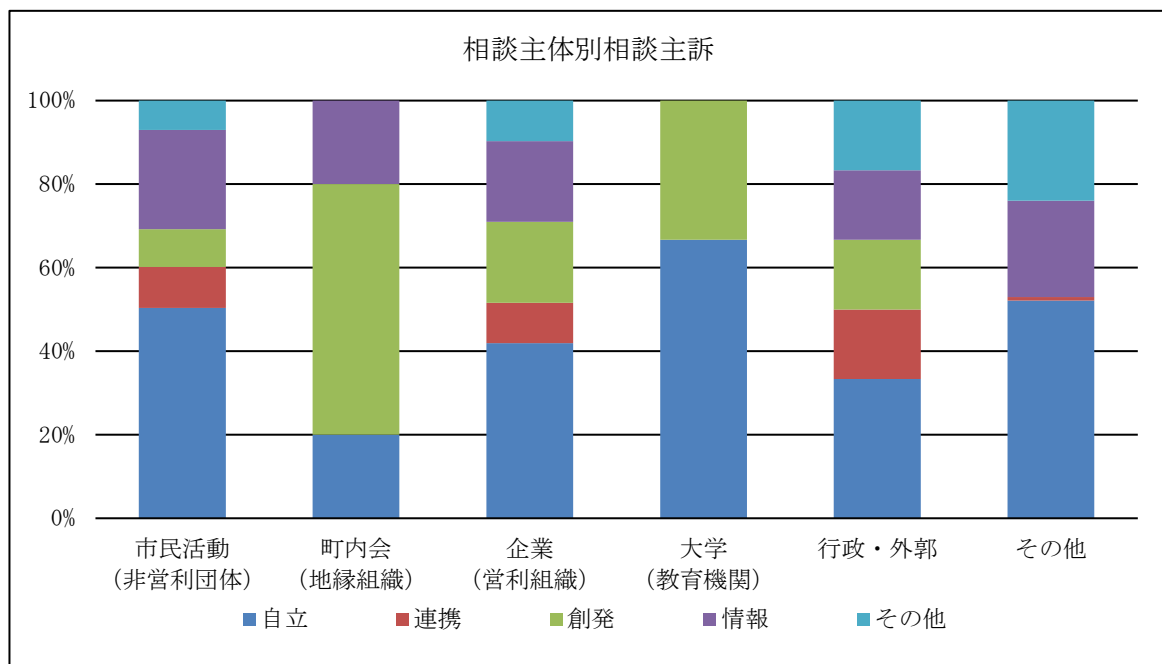
令和 3 年度の「自立」段階の相談は 151 件と前年度の 137 件と比較して 110%増加した。サポートセンターに寄せられている活動相談の 50%が「自立」段階の相談であり、依然として利用者からのニーズが高いことがわかる。

「創発」の段階の相談は、前年度の 3 倍である 24 件に増加した。相談の内容としては仙台市の「市民協働事業提案制度」や「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」の申請前に行われる事前相談での相談が 23 件で主であった。前年度は「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」の前身である「仙台市まちづくり推進助成事業」が新規での受け付けを行わず、継続の助成申請のみとしており、サポートセンターへの相談がなかった。このため、令和 3 年度から行われた「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」の開始によって、相談の件数が増加したと考えられる。

⑥ 相談主体別—相談主訴

相談主体別の相談主訴は以下の表の通り。

	市民活動	町内会	企業	大学	行政・外郭	その他	合計
自立	72 件	1 件	13 件	2 件	2 件	61 件	151 件
連携	14 件	0 件	3 件	0 件	1 件	1 件	19 件
創発	13 件	3 件	6 件	1 件	1 件	0 件	24 件
情報	34 件	1 件	6 件	0 件	1 件	27 件	69 件
その他	10 件	0 件	3 件	0 件	1 件	28 件	42 件
合計	143 件	5 件	31 件	3 件	6 件	117 件	305 件



相談主体別に相談主訴を見ていくと、市民活動団体（非営利団体）では「自立」の段階の相談が最多で 72 件。助成金申請やクラウドファンディングなど資金調達に関する相談や、任意団体からの NPO 法人化の相談の他、コロナ禍の影響から解散についての相談もあった。

町内会からの相談のうち 3 件は、「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」の事前相談での対応のため「創発」に分類している。

企業（営利組織）からの相談は、「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」の事前相談の他、社会貢献活動に関する相談、連携・協働相手となる市民活動団体を探しているという相談など。仙台若者アワードに参加した企業からの社会貢献活動拡大についての相談もあり、仙台若者アワードへの実施協力が、若者の人材育成だけでなく企業の社会貢献活動の拡充にもつながった。

その他の相談は、まだ組織化していない個人からの活動の立ち上げ相談（32 件）や活動に参加したいという個人からの相談（23 件）、当事者・受益者からの相談（22 件）など。

⑦ 相談主体別一相談内容（複数選択あり）

活動相談の内容・相談者について複数選択による集計結果を見ると「自立」の段階の相談が 261 件（前年度 195 件）と昨年に引き続き最多であった。「連携」は 74 件（前年度 45 件）、「創発」は 36 件（前年度 11 件）、「情報」は 149 件（前年度 123 件）、「その他」は 64 件（前年度 89 件）であり、「その他」を除いてほとんどが前年度より増加した。（資料一覧：資料 12-3 参照）

個別の相談内容を見ていくと、「自立」に含まれる「課題解決に取り組もうとする段階の相談」が 155 件と最多であり、そのうちの 69 件が「市民」からの相談であった。活動の立ち上げや参加についての相談が多く見られた。このことから相談者の取り組みたい課題を整理する段階から相談のニーズがあり、サポートセンターがそれに対応できているということがうかがえる。

「情報収集・情報提供」が次に多く 149 件であった。その中では「市民活動（非営利組織）」が 68 件、「市民」続いて多く 50 件だった。

⑧ その他

仙台市市民協働推進課の「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」と「市民協働事業提案制度」の事前相談に対応した。

■「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」事前相談

令和 3 年度実施事業の事前相談（令和 3 年 5 月～6 月） 16 件

令和 4 年度実施事業の事前相談（令和 4 年 3 月） 1 件

※令和 4 年度実施事業の事前相談は令和 4 年 4 月も継続対応予定

■「市民協働事業提案制度」事前相談

令和 4 年度実施事業の事前相談（令和 4 年 8 月～9 月） 6 件

平成 28 年度から継続して、せんだい創業支援ネットワークの構成団体として、公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する仙台市企業支援センター「アシ☆スタ」と連携し、「起業・創業なんでも相談 DAY」に出張相談員として参画している。令和 3 年度は年間を通し、10 件の相談に対応した。

5. 交流・連携・その他

5-1. 外部組織との連携

他組織とサポートセンターの連携を深め、効果的な管理・運営を行うため、下記のネットワーク会議などへ参加や、イベント運営協力を実施した。

連携先	日程	内容
会議・事業連携等		
杜の都の市民環境教育・学習 推進会議 (FEEL Sendai)	4月27日(火)	定例会 (各回1名)
	11月9日(火)	
	2月25日(金)	
	3月14日(月)	公開フォーラム(1名)
みやぎ NPO プラザ	6月17日(火)	施設使用団体選考審査会 (1名)
	7月31日(土)	市民活動支援施設訪問ヒアリング対応 (1名)
	3月25(金)	次年度事業情報交換(1名)
みやぎ NPO ナビ	7月16日(金)	情報公開システム運用協議会 オブザー バー (1名)
	10月15日(金)	検討ワーキンググループ (各回1名)
	10月22日(金)	
	11月4日(木)	運営委員会 (1名)
仙台市社会福祉協議会	6月24日(木)	評議委員会 (各回1名)
	11月30日(火)	
	3月30日(水)	
仙台市ボランティアセンター	6月25日(金)	ボランティア・市民活動ネットワー ク会議 (2名)
	7月27日(火)	ボランティア・市民活動ネットワー ク会議 (3名)
仙台市生涯学習支援センター	7月10日(土)	持続可能な地域づくり講座 (1名)
みやぎグリーン購入ネットワ ーク	10月13日(水)	先進事業所見学会 (1名)

連携先	日程	内容
イベント参加		
みやぎ NPO プラザ	12 月 5 日(日)	開館 20 周年記念フォーラム (1 名)
仙台市ボランティアセンター	12 月 11 日(土)	ボランティアフォーラム 2021 (1 名)
仙台市生涯学習支援センター	10 月 13 日(水)	学びのまち・仙台 市民カレッジ (各回 1 名)
	11 月 10 日(水)	
	12 月 8 日(水)	
	1 月 12 日(水)	
	2 月 9 日(水)	
多賀城市市民活動サポートセンター	12 月 11 日(土)	クリスマス雑貨市 (1 名)
その他		
仙台市	10 月 1 日(金) ～31 日(日)	フードドライブ(館内 1 階)
	2 月 1 日(火) ～28 日(月)	
	4 月 22 日(木)	震災初動訓練対応(1 名)
	2 月 1 日(火)	協働まちづくり推進委員会 話題提供 (1 名)
	3 月 5 日(土)	仙台防災未来フォーラム 2022 ポスター展示

5-2. 会議・研修

(1) 会議

サポートセンターの管理・運営を円滑に、かつ効果的に行うため、下記のように各種会議（打ち合わせ）を開催した。

○仙台市と指定管理者との定例打ち合わせ

開催頻度：1回／月

所要時間：約2時間／回

内容：管理運営状況の報告・連絡・相談や懸案事項の協議

○施設運営会議

開催頻度：2回／月

所要時間：約2時間／回

構成メンバー：センター長、副センター長、および各主任

内容：各事業の進捗管理とサポートセンター運営に関する課題や懸案事項に関する協議

○ケースミーティング・全体ミーティング

開催頻度：2回／月（休館日活用）

所要時間：1時間／回

内容：相談業務および施設運営管理についての共有や研修

○チームミーティング、部門会議、各事業ミーティング

随時開催

(2) 研修

外部研修では、中間支援組織の新人および職員対象者への全国規模の研修の他、下記の各研修に参加した。また、内部研修として中間支援組織に在職する職員ならば知識として知っておくべき対人援助業務に関するもの、協働、市民活動シアターの施設設備についてなどのさまざまな研修を行った。

外部研修	日程	人数
NP0 法人日本 NP0 センター「NP0 と行政の対話を促進するための基礎講座」	6月2日(水) 6月25日(金)	2名
NP0 法人日本 NP0 センター「NP0 法人に求められるデジタル手続きを考える勉強会」	10月29日(木)	1名

外部研修		日程	人数
生涯発達支援塾 TANE「つなぎめ講座」	つくる人の権利①	8月22日(日)	1名
	つくる人の権利②	10月17日(日)	1名
	多様な学びと権利①	12月19日(日)	1名
	多様な学びと権利②	2月20日(日)	1名
NPO 法人チャイルドラインみやぎ「社会的養護の子どもたちの現状と自立支援についての学習会」		9月29日(水)	1名
SDGs 市民カレッジ特別講座		10月21日(木)	1名
市民セクター全国会議 2021		11月26日(金) 11月27日(土)	1名
のびすく泉中央「中高生の“第三の居場所”について考える」		12月10日(金)	1名
みやぎ NPO プラザ「NPO 支援センター研修」		12月16日(木)	2名
みやぎ NPO プラザ「NPO 支援施設フォローアップ事業人材育成研修」		2月17日(木)	1名
演劇工房 10-BOX「舞台スタッフ・ラボ 2021」		2月5日(土)～ 12日(土)	1名
仙台市環境行動計画一般研修/庁舎施設管理研修		3月9日(水)	全職員
宮城県プロボノ普及啓発セミナー		3月24日(木)	1名
内部研修		日程	人数
NPO いろは塾		5月12日(水)	全職員 対象
続・NPO いろは塾		5月26日(水)	全職員対象
市民活動シアター研修		4月6日(火) 4月8日(木) 4月30日(金) 5月28日(金)	3名
相談対応研修		6月9日(水) 6月23日(水)	2名
相談対応ロールプレイ研修		7月14日(水)	全職員対象
ローカルメディアコンパス体験会		9月8日(水)	全職員対象
シアター営利・非営利 対応研修		10月27日(水)	全職員対象
シアター受付対応研修		11月10日(水) 1月12日(水)	全職員対象
使用変更受付研修		12月8日(水)	全職員対象

5-3. 視察・見学対応

令和3年度の視察・見学による来訪者の件数は21件、人数は39人だった。前年度（21件、50人）に対して件数は等しいものの人数は減少した。新型コロナウイルス感染拡大を受け、県内外からの視察・見学を自粛していると考えられる。

来訪者属性は、その他（学生・議員・公益法人）が13件で最も多く、前年度、マスコミ取材が6件であったが、令和3年度は1件と減少した。また、企業関係者は0件であったが令和3年度は3件と微増した。これは、障がい者雇用を行う企業が利用者と一緒に来訪し、サポートセンターの機能やサービス、利用者への市民活動の興味関心を引き出すことを行っていることが理由として挙げられる。行政関係者は前年度同様1件にとどまったのは、新型コロナウイルス感染症の対応に追われていたということが予想される。

（集計一覧：資料13「視察・見学対応」参照）

来訪者属性（件数）	R2年度	R3年度
市民活動団体	4	3
行政関係者	1	1
企業関係者	0	3
その他（学生・議員・公益法人）	10	13
マスコミ取材	6	1
合計件数	21	21

来訪者月別集計		
月	件数	人数
4月	0	0
5月	0	0
6月	1	1
7月	4	9
8月	2	5
9月	0	0
10月	0	0
11月	1	2
12月	3	8
1月	2	4
2月	2	2
3月	5	8
合計	21	39

5-4. 防災避難訓練

消防法に基づく防災避難訓練を実施した。

日程	実施時間	参加人員	不参加	訓練種別
令和3年10月13日(水)	15:00～17:00	20人	3人	消火訓練、通報訓練、 避難訓練、設備操作訓練
令和4年2月9日(水)	14:30～17:00	20人	3人	

訓練の目的

〔不特定多数が利用する施設としての火災・地震発災時の避難誘導の手順を共有する〕

- 感染予防を考慮した避難誘導手順の実施確認（緊急時対応マニュアル）
- 施設利用者へのパニック防止のを目的とした情報提供の実施確認（館内放送）
- 館内災害対応設備及び感染予防備品の確認（施設設備・災害対応備品）
- 共同事務室利用団体に対する火災時避難手順の共有

訓練の内容

- 防災設備・備品の種類、設置場所、使用方法の確認
- 避難誘導行動マニュアルの確認
- 想定災害による施設利用者への避難誘導実施訓練
- 車椅子の使用法・補助方法の研修

消防計画に定めた年2回の消防訓練は、令和3年10月13日(水)及び令和4年2月9日(水)に「防災設備・備品の種類、設置場所、使用方法の確認」「避難誘導訓練」を主な内容として行った。「避難誘導訓練」は令和3年10月13日(水)は火災、令和4年2月9日(水)は地震を想定しての訓練とした。

令和3年10月13日(水)の実施では、火災発災時における迅速な避難誘導行動を実施・検証することを主テーマにおいた。スタッフ役・利用者役に分かれて訓練を行ったのち意見交換をおこなった。また今後利用する場面が多くなると想定される車椅子についての使用法・補助法についてスタッフを講師として研修を実施した。

令和3年2月24日(水)の実施では、仙台市消防局の防火・防災DVD貸出制度を利用して座学での研修を実施。防火管理者の役割および災害発生時の対応における心構えや行動について共有を図るものとした。

いずれの回においても、中央監視システムの見方、館内放送、消火栓および消火器の設置状況及び操作方法、傷病者が出た場合の対応について改めて確認した。掲示物（プラカード）や使用キットなどの緊急時準備品の確認も行い、避難訓練後には、良かった点・改善が必要な点をスタッフ間で情報共有し、次回実施時に反映させていくこととした。

5-5 施設の維持管理

令和3年度には大規模工事・修繕はなかったが、令和3年2月13日(土)の地震にて被害のあった箇所についての補修工事を令和3年5月26日(水)に行った。

令和3年5月1日(土)午前にM6.8、令和4年3月16日(水)深夜にM7.4の強い地震が発生したが、いずれも利用者はおらず、施設にも大きな異常は認められなかった。

前年度より発生していた4階の室温計が40℃以上を示す現象については、4月に再度発生したが、空調をOFFにすることで解消した。その後同様の現象は出ていないが、明確な原因はいまだ判明していないことから今後も経過観察とする。

館内設置のロッカーでは、暗証番号入力時の不具合が多発した。これらはリニューアル時に新規設置した事務用ブース内ロッカー4台で発生したことからリコール対象となり、10月27日に該当機種のロッカー扉をすべて交換した。メーカーによると同様の不具合が全国的に発生しているとのことで、今後も同機種に発生する可能性があり、こちらも経過を観察していく。

導入から6年程度経過したFree Wi-Fiでは、8月に5階交流サロンにて不具合が発生、9月22日に交換・増強を行った(10月1日運用開始)。6階・5階・地下1階に新機種を設置し、アクセスポイントもこれまで全館共通で1つだったものを各階に増設、同時接続台数の増加を可能とした。6階・5階・地下1階に設置した新機種は、従来の2.4GHz仕様に加えて5GHzの同時通信仕様となり、200台程度まで同時接続可能と思われる。(参考:1台あたり同時接続可能台数…2.4GHz 50台、5GHz 75台)

地下1階市民活動シアターでは、令和3年12月6日(月)にNTTdocomoのアンテナ交換、令和4年3月23日(水)にはsoftbankのアンテナ交換が行われ、5G対応となった。auについても令和4年度に調査が入る予定となっている。

そのほか、令和3年度は受付システム改修を行った(令和4年2月22日/3月23日改修・3月24日より稼働)。

また印刷機について、令和4年2月24日に入替を実施。仙台市がコロナ禍の影響で緊縮財政となったことから、減少傾向にある利用状況も鑑み(利用件数は10年前の平成23年度比23%)、2台設置を見直し1台設置に変更された(令和4年2月24日入替、2月25日より稼働)

6. 事業報告

事業 1	情報収集提供事業	P53
事業 2	相談事業	P59
事業 3	人材育成事業	P65
事業 4	協働に関する 理解促進及び機会創出事業	P71
事業 5	調査研究事業	P77

個別事業報告書

【事業 1】 情報収集提供事業	
事業目的	1. 多彩な市民活動や、市民が気づいた地域の課題、協働による課題解決の取組みなどについて、活発に情報受発信される環境を整える。 2. 市民活動と協働について広く市民へ伝える。 3. 市民目線での情報発信を活性化する。
成果目標	・ 市民が団体情報や活動に有益な情報に触れる機会を増やす。 ・ まちづくりに関心を持ち、取り組む人材を増やす。
実施目標	・ ブログの訪問者数(ユニークユーザー)年間 40,000 件以上 ・ ブログ投稿数 250 件以上 ・ 事業者の社会貢献活動の紹介 年間 5 件以上
成果	1. 市民活動、協働等に関する情報の収集提供業務全般 (1) 市民活動、協働等に関する情報の収集および提供 ① マチノワひろば 展示数：3 企画 内、自己使用 1 企画（前年度 4 企画 内、自己使用 2 企画） 自己使用とは、サポートセンター主催による企画 ② マチノワギャラリー 展示数：10 企画 内、自己使用 1 企画（前年度 9 企画 内、自己使用 1 企画） (2) 市民活動、協働等に関する図書資料の収集、管理及び貸出 図書貸出件数：71 件（前年度 53 件）、貸出冊数：116 冊（前年度 72 冊） 詳細は「3-4. 図書の貸出」参照 (3) 市民活動団体等のチラシ、ポスター等の受付、掲示及び関係施設への配布 情報受付総件数：2,767 件（前年度 2,297 件／前年度比 120%） 詳細は「3-1. 情報掲示等利用」参照 (4) サポートセンターのホームページの管理及び更新 ホームページ ユニークユーザー：20,777 件（前年度 19,608、前年度比 106%） ページビュー：98,757 件（前年度 95,659、前年度比 103%） ブログ ユニークユーザー：69,073 件（前年度 57,491、前年度比 120%） ページビュー：918,717 件（前年度 777,079、前年度比 118%） 投稿記事数：399 件（前年度 404 件） 詳細は「3-5. 情報発信」参照 (5) そのほか情報収集提供業務全般 ・ twitter フォロワー数：令和 4 年 3 月末 662 人（前年度 3 月末 450 人強） ・ 公式 YouTube チャンネル「サポセンちゃんねる」 登録者数：令和 4 年 3 月末 20 人（前年度 3 月末 8 人） < 動画ごとの視聴回数 > 令和 3 年 3 月 5 日公開【協働の現場トーク！】「ちょっとお茶っこサロン」に見る小さな協働：150 回（前年度 75 回） 令和 3 年 3 月 5 日公開【協働の現場トーク！】「ちょっとお茶っこサロン」に見る小さな協働一ダイジェスト版：74 回（前年度 48 回） 令和 3 年 8 月 18 日公開 はじめての協働：136 回

	2. 機関誌『ぱれっと』の発行 ・年間 12 回（3,000 部×12 号）発行、配布部数：平均 2,686 部 - 詳細は「3－5. 情報発信（1）サポートセンター通信『ぱれっと』の発行」、「ぱれっと読者の声」参照 3. 市民ライターの育成 <u>講座「ローカルメディアコンパスを体験しよう」</u> ・13 名が参加し、講座満足度 5 満点中 4.7 点と高評価を得られた。 ・詳細は「参加者アンケート集計結果」参照。 ・参加者数名が、ローカルメディアコンパスカードに興味を持ち、その場で購入。後日周囲の人に「一緒にやってみよう」と呼び掛けた人もおり、情報の伝え方について、自分でもっと勉強しようと思ってもらった機会にできた。 ・講座終了後、参加者の数名が、講座に参加した感想を個人ブログで公開したり、ワークで話し合った経験を活かしながら記事を執筆したりするなど、参加して終わりではなく自分事として考えを深めてもらえた。 <u>ワークショップ「ローカルメディアコンパスを、ちょっと体験」</u> ・10 月～11 月にかけて 2 回開催したところ、参加者から「今後も開催して欲しい」との声があり、12 月～2 月にかけても月 1 回ずつ行い、計 5 回開催した。 ・第 1 回～第 5 回までに計 14 名が参加。 ・参加者アンケートから満足度 5 満点中 4.8 点と高評価を得られた。 ・詳細は「参加者アンケート集計結果」参照。 ・様々な立場の人同士で楽しく気軽に意見交換できることが好評となり、リピーターの参加があった。 ・ワークで話題に上がったことを独自に調べた人や、次回の話題提案をしてくれる人もおり、主体的に参加してもらえた。 ・開催報告のブログ記事を定期的に公開したことで、ワークショップの具体的な内容や参加者の様子などが広く知ってもらえた。大学の課題に採用され、サポートセンターにこれまで来たことがなかった学生の参加もあった。 <u>市民ライター課外活動</u> ・2 名の市民ライター（過去市民ライター養成講座受講者）が、「いづいっちゃんねる」視聴レポートを執筆。サポートセンターブログで公開した。
課題	新型コロナウイルス感染拡大による施設の利用休止や、施設利用者の減少にともない、1 階マチノワひろばの企画が減少した。自己使用企画を増やすなど活用のための運用計画見直しや、事業運営部門内のさらなる連携が必要。

実施概要

1. 市民活動、協働等に関する情報の収集提供業務全般

(1) 市民活動、協働等に関する情報の収集および提供

① マチノワひろば

<中止>4月16日(金)～4月25(日)西多賀まちづくり推進委員会

期間	企画	設置者・主催者
8月26日(月)～ 8月19日(木)	仙台自主夜間中学「七夕飾り」	仙台に夜間中学をつくり育てる会
7月3日(土)～ 2月14日(月)	いづいっちゃんねる展	サポートセンター
2月15日(火)～ 3月31日(木)	3月12日はじまりのごはん展	3.11 オモイデアーカイブ

② マチノワギャラリー

<中止>4月16日(金)～4月25(日)西多賀まちづくり推進委員会

期間	企画	設置者・主催者
6月1日(火)～ 6月30日(水)	Anego Rainbow Project	Anego
7月1日(木)～ 8月19日(木)	仙台自主夜間中学「学びで人生をステップアップ」	仙台に夜間中学をつくり育てる会
8月21日(土)～ 9月20日(月)	9/1～7 防災週間	サポートセンター
10月1日(金)～ 10月29日(金)	あわてんぼうのサンタクロースを織ってみよう	カード織りあかつき会
11月1日(月)～ 11月20日(土)	「第19回仙台ゴスペル・フェスティバル」YouTube 配信！	仙台ゴスペル・フェスティバル実行委員会
11月20日(土)～ 12月2日(木)	レトリボン 30周年 Think Together Again	やろっこ
12月2日(木)～ 12月28日(火)	寄附月間展示@仙台	寄付月間展示実行委員会
1月4日(火)～ 1月31日(月)	使用済み切手ボランティアで海外医療協力	仙台 JOCS
2月15日(火)～ 3月11日(金)	3月12日はじまりのごはん展	3.11 オモイデアーカイブ
3月13日(日)～ 3月31日(木)	てんかん啓発キャンペーン 「パープルデー」	公益社団法人 日本てんかん協会宮城県支部

(2) 市民活動、協働等に関する図書資料の収集、管理及び貸出

「3-4. 図書の貸出」参照

(3) 市民活動団体等のチラシ、ポスター等の受付、掲示及び関係施設への配布

日時・期間	実施事項
令和3年3月27日～ 令和3年5月11日	市民活動イベント掲示板（骨プロ） 連携施設への配架受付を休止（ウェブ掲示は継続）
令和3年6月29日 午後3時～午後4時半	仙台に情報の背骨を通すプロジェクト（骨プロ） 担当者会議開催 会場：サポートセンター4階 研修室5 参加：11名（施設：6施設、担当課：3課、指定管理者：1団体） 内容：「骨プロ」概要共有、市民活動イベント掲示板の設置背景・概要・運用・方法善点について説明、質疑応答、意見交換
令和3年8月27日～ 令和3年9月12日	市民活動イベント掲示板（骨プロ） 連携施設への配架受付を休止（ウェブ掲示は継続）
令和3年10月5日～	日立システムズホール仙台への配架受付を再開

(4) サポートセンターのホームページの管理及び更新

- ・ホームページの管理および更新、ブログの更新

(5) そのほか情報収集提供業務全般

- ・ツイッターによる拡散
- ・YouTube チャンネルの管理および更新

2. 機関誌『ぱれっと』の発行

- ・発行 毎月1日～5日の間 月／3,000部
- ・仕様 A4サイズ、両面、フルカラー
- ・構成 下記、11コーナーから紙面編集に合わせて毎号選択し掲載する
ワクワクビト／協働／市民活動突撃レポート／今、私にできること／お役立ち本／コトハジメ／募集して□／このたびカタチになりまして／私のあしあと／活動に＋／気になる○○
- ・工程 1号あたり、編集会議から納品まで約1ヶ月半 3号分の工程を同時進行
※令和3年11月（令和4年1月号編集工程）より2チーム制で隔月進行

内部編集会議 → 取材調整 → 取材 → 執筆・原稿校正 →
デザイナーと編集作業 → センター長、副センター長確認 →
印刷入稿 → 納品 → 発送及び配布

3. 市民ライターの育成

(1) 講座「ローカルメディアコンパスを体験しよう」

日時：令和3年10月9日(土)14:00～16:00

会場：サポートセンター4階 研修室5

講師：NPO 法人 森ノオト 理事長 北原 まどかさん

対象：市民ライター、市民活動団体広報担当者、何か自分で発信したいと考えている人など

参加者：13名（定員20名）

参加費：無料

内容：①講 話「ローカルメディアコンパス誕生のきっかけ」

②アイスブレイク 自己紹介・気になるカードで話してみよう

③ローカルメディアコンパスを使用した実際のワークショップ

・カードのお題について話し合う

・情報発信の方針を決める

・各チーム発表

・北原さんよりコメント

(2) ワークショップ「ローカルメディアコンパスを、ちょっと体験」

日時：令和3年10月～令和4年2月の間で毎月1回開催（計5回）

18:30～20:00

会場：サポートセンター1階 マチノワひろば

進行：サポートセンタースタッフ

対象：市民ライター、市民活動団体広報担当者、何か自分で発信したいと考えている人など

定員：4名程度

参加費：無料（申込不要、入退場自由）

内容：ローカルメディアコンパスを用いたワークショップと意見交換

	開催日	参加人数
第1回	令和3年10月29日	2名
第2回	令和3年11月20日	2名
第3回	令和3年12月17日	3名
第4回	令和4年1月14日	4名
第5回	令和4年2月18日	3名

(3) 市民ライター課外活動

サポートセンター主催事業「いづいっちゃんねる」の視聴レポートを市民ライター2名が執筆。サポートセンターのブログへ掲載

添付

■広報物 ■配布資料 ■アンケート結果 ■その他（ぱれっと）

個別事業報告書

【事業2】相談事業	
事業目的	サポートセンター内外で多様な主体の相談に応じることのできる環境を整える。
成果目標	地域の課題に気づいた市民が課題解決に自ら取り組み、必要に応じて多様なまちづくりの主体が協働で課題解決に取り組める状況をつくる。
実施目標	年間相談件数 900 件、活動相談件数 400 件
成果	・年間相談件数 845 件（前年度比 124%）、内活動相談件数 305 件（前年度比 97%） ・活動相談の属性別内訳 ➢ 市民活動（非営利団体）143 件（前年度 174 件）、 ➢ 町内会（地縁組織）5 件（前年度 2 件） ➢ 企業（営利組織）31 件（前年度 16 件） ➢ 大学（教育機関）3 件（前年度 4 件） ➢ 行政・外郭 6 件（前年度 16 件） ➢ その他（市民など）117 件（前年度 102 件） ・企業（営利組織）は増加（16 件→31 件）。企業から社会貢献活動に取り組みたい、事例を知りたいという相談が寄せられた。 ・施設利用の回復に伴い「窓口」利用相談がわずかに増加（321 件→345 件）。 ・「その他」の相談が大幅に増加（44 件→195 件）。その結果、相談件数全体が大幅に増加した。今年度は「フォローアップ」に重点を置いており、今年度に限らず今までのサポートセンターの事業参加者、相談者のその後の変化を積極的にヒアリングしたことが増加につながった。 ・「創発（市民活動・協働に関する制度等の相談や政策提言など）」の相談件数は前年度から増加（8 件→24 件）。 ・令和 3 年度より始まった「地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業」は、令和 3 年度実施事業は 5 月 18 日（火）～6 月 30 日（水）までの間で 16 件対応した。令和 4 年度の事前相談期間は 3 月 22 日（火）～4 月 21 日（木）と年度をまたいでいるが、令和 3 年度内では 1 件対応。令和 4 年度も引き続き対応する。 ・「市民協働事業提案制度」の事前相談に 5 件対応した。 ・公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する仙台市起業支援センター「アシ☆スタ」主催の「起業・創業なんでも相談 DAY」に出張相談員として参加。年間を通して、10 件対応した。また「アシ☆スタ ワンポイント講座」の中で「漠然とした事業アイデアを整理するポイント」の講師を担当。コロナ禍のため令和 3 年 7 月 21 日（水）～8 月 17 日（火）の間で動画配信として公開された。この期間での再生回数は 15 回だった。 ・公益財団法人仙台市市民文化事業団が主催する「持続可能な未来へ向けた文化芸術環境形成助成事業」に協力し、オンラインで募集要項の説明を実施。16 団体がリアルタイムで視聴した。

課題	・相談全体の件数は増えたものの、活動相談は前年度よりも減少（314 件→305 件）しており、目標である 400 件には届かなかった。 ・相談全体で見た際「市民活動（非営利団体）」からの相談は増加したが、「市民活動（非営利団体）」からの活動相談は減少（174 件→143 件）。
実施概要	1. 相談対応 (1) 市民活動のはじめ方、市民活動団体の運営、法人格の取得等、市民活動全般に関する相談対応 ・市民活動のはじめ方、市民活動団体の運営、法人格の取得等、市民活動全般に関する相談に対応した。 ・市民活動団体間の協働や、多様なまちづくりの主体間の協働を進めるために必要な相談に対応した。 (2) 市民活動団体間の協働や、多様なまちづくりの主体間の協働を進めるために必要な相談対応 ① 地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業事前相談 「協働まちづくり推進助成事業」が制度の見直しを行い、令和 3 年度から「地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業」になり、引き続き事前相談に対応した。 事前相談期間 【令和 3 年度実施事業】 令和 3 年 5 月 18 日(火)～6 月 30 日(水) 【令和 4 年度実施事業】 令和 4 年 3 月 22 日(火)～4 月 21 日(木) 会場：仙台市市民活動サポートセンター、オンライン ※令和 3 年度実施事業の事前相談の一部で新型コロナウイルス感染拡大に伴い、対面での事前相談からオンラインでの相談に切り替えて実施した。 ② 市民協働事業提案制度事前相談 昨年から継続して仙台市の担当課と事前相談に対応した。 事前相談期間：令和 3 年 8 月 4 日(水)～9 月 10 日(金) 会場：仙台市市民活動サポートセンター (3) 相談ツールの活用 ① 市民活動の始め方・続け方 市民活動団体の立ち上げや NPO 法人・一般社団法人設立の相談に来た際に配布。NPO 法改正に伴い、縦覧期間の記述など一部改訂を行い、該当部分の差込訂正を行った。 ② 市民活動お役立ち情報 令和 2 年度に行われた「はじめて講座」オンライン編の内容をお役立ち情報として作成。新規作成に伴い既存の市民活動お役立ち情報の改訂やレイアウトの見直し、一部のお役立ち情報を廃止・統合を行った。 また利用者の活動立ち上げの段階に沿うことが出来るように順番の入れ替えを検討。

〈市民活動お役立ち情報 改訂予定〉 下線が統廃合を実施するテーマ

改訂前	改訂後
1. NPO って何だろう	1. NPO って何だろう
2. <u>チラシ・ポスターの置ける スペース（廃止）</u>	2. 規約の作り方
3. <u>市民活動団体が利用できる 機材一覧（廃止）</u>	3. チラシを作るコツ
4. <u>仙台市内ホールマップ（廃止）</u>	4. 企画書作成のポイント
5. <u>ボランティア相談窓口（廃止）</u>	5. イベント実施のノウハウ
6. 助成金のいろは	6. 助成金のいろは
7. 規約の作り方	7. 活動報告書の作り方
8. 報告書の作り方	8. 情報発信のプラスアルファ
9. <u>メディア活用大作戦</u>	9. オンラインを使った活動
10. <u>名義後援の取り方</u> (→9・10 統合)	
11. チラシを作るコツ	
12. イベント実施ノウハウ	
13. 企画書作成のポイント	

2. 伴走相談・アウトリーチ相談

(1) 伴走相談

フォローアップ（状況確認）による情報提供やコーディネート等、継続した相談対応で、伴走型の支援を実施。

(2) アウトリーチ相談

① アシ☆スタ起業・創業なんでも相談 DAY

平成 28 年度から継続して、せんだい創業支援ネットワークの構成団体として、公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する仙台市起業支援センター「アシ☆スタ」が実施している「起業・創業なんでも相談 DAY」にサポートセンターのスタッフが出張相談員として参加し、起業に向けた思いの整理に対応した。

実施日時：毎月第三水曜日 13：30～16：30

○アシ☆スタ ワンポイント講座

「漠然とした事業アイデアを整理するポイント」の講師を担当し、アイデアの整理、法人格についての解説と、起業・団体立ち上げの事例を紹介した。YouTube にて、令和 3 年 7 月 21 日(水)～8 月 17 日(火)の期間で限定配信された。

「アシ☆スタ」から受講希望者に動画 URL を送付し、上記期間何度でも見ることが出来るようにしていた。

② 仙台市市民文化事業団

「持続可能な未来へ向けた文化芸術環境形成助成事業」オンライン説明会

実施日時：令和 3 年 7 月 6 日(火)

会場：オンライン (YouTube live)

主催：公益財団法人仙台市市民文化事業団

具体的内容：令和 3 年度から新たに始まった助成事業について、主催である公益財団法人仙台市市民文化事業団と、今まで様々な助成金の採択を受けてきた一般社団法人アーツグラウンド東北、仙台市市民活動サポートセンターの 3 者の対話形式で募集要項を説明。

当日視聴団体数：16 団体

③ 仙台市市民文化事業団 助成金リニューアル相談

「持続可能な未来へ向けた文化芸術環境形成助成事業」での協力から市民文化事業団が募集する助成金のリニューアルについて「サポセンに相談したい」と依頼があったが、相談には至らなかった。

④ 障がい者サポーターズ Golazo!インクルーシブスポーツキャラバン in 石巻
訪問

訪問日：令和 3 年 11 月 13 日(土)

会場：石巻専修大学

内容：障害の有無に関わらず親子で体を動かし運動の楽しさを感じてもらうことを目的に、ダンスやトレーニングをするイベントの現場を訪問し、広報や運営の課題について現場の確認と情報交換を行った。

⑤ まちづくり活動助成報告会参加

具体的内容：令和 3 年度に助成を受けた団体からの活動報告。

■太白区まちづくり活動助成報告会

実施日時：令和 4 年 1 月 30 日(日)14:00～17:00

会場：太白区役所

主催：太白区まちづくり推進課地域活動係

■若林区まちづくり活動助成報告会

実施日時：令和 4 年 2 月 1 日(火)17:30～19:30

会場：若林区中央市民センター

主催：若林区まちづくり推進課地域活動係

■宮城野区まちづくり活動助成報告会

実施日時：令和 4 年 2 月 9 日(水)18:30～20:30

会場：宮城野区中央市民センター

主催：宮城野区まちづくり推進課 地域活動係

⑥ 仙台市泉区まちづくり推進課 訪問

訪問日：令和 4 年 1 月 24 日(月)

場所：泉区役所 泉区まちづくり推進課

内容：泉区まちづくり活動助成から助成を受けている団体のコロナ禍での実施状況を泉区の担当者と情報交換をした。

⑦ 株式会社 LITALIKO 訪問

訪問日：令和 4 年 2 月 15 日(火)

場所：株式会社 LITALIKO 就労支援施設

内容：障がい者の就労支援を行う企業を訪問し、就労支援事業を展開する上での現在の課題などについてお話を伺った。

3. 協働実践者の活用

協働を実践している現場を訪問し、関係者（協働の実践者やコーディネーター的な役割を担うキーパーソン等）と顔が見える関係を構築。それらの人材から、協働を進めるために必要な支援について情報収集した。

(1) 男女共同参画推進せんだいフォーラム 2021

訪問日：令和 3 年 11 月 20 日(土)

内容：男女共同参画推進せんだいフォーラム 2021 のプログラムに参加し、各企画の運営者などと情報交換をした。

(2) 仙台成長会議

訪問日：令和 3 年 12 月 10 日(金)

内容：仙台的中小企業経営者などが参加する会議へ参加し、企業の社会貢献について情報交換をした。

(3) せんだい『プリズンサークル』上映会

訪問日：令和 3 年 12 月 11 日(土)

内容：上記の上映会に参加し、個人として上映会を企画した主催者に企画の意図や今後の展開についてお話を伺った。

(4) 鶴ヶ丘一丁目町内会「お茶の間学習」

訪問日：令和 3 年 12 月 14 日(火)

内容：町内会と大学の協働事業の現場を訪問し、町内会役員や大学生と情報交換をした。

(5) たちまち茶々

訪問日：令和 3 年 12 月 18 日(土)

内容：若者版市民協働事業提案制度採択事業の現場を訪問し、協働事業の様子を見学。団体と情報交換をした。

(6) NPO 法人仙台夜まわりグループボランティア研修会

訪問日：令和 4 年 1 月 8 日(土)

内容：ボランティア研修会に参加し、団体の活動状況およびボランティア受け入れ状況についてお話を伺った。

	(7)みやぎ市民電力連絡会活動報告会 訪問日：令和 4 年 1 月 16 日(日) 内容：市民団体が連携して実施している活動報告会に参加し、それぞれの団体の状況や連携についてお話を伺った。 (8)EPO 東北「パートナーシップ団体情報共有会」 訪問日：令和 4 年 1 月 24 日(月) 内容：環境系の中間支援組織が主催するオンライン会議に参加し、SDG s を切り口とした企業や行政と市民活動団体等の協働の状況などの情報交換を行った。
添付	☐ 広報物 ☐ 配布資料 ☐ アンケート結果 ☐ その他（ ）

個別事業報告書

【事業 3】人材育成事業	
事業目的	地域や社会の課題の解決に様々な形で関わる市民を増やし、その潜在能力を引き出すことで、価値観の変化や地域の存立に大きな影響を与える課題にもしなやかに対応できる人材を育成する。
成果目標	事業参加を通してその後の行動や活動に変化がもたらされた事例を 5 年間で 100 件以上生み出す。
実施目標	若者の人材育成に資する事業 2 事業以上
成果	1. 支える市民を増やす (1) いづいっちゃんねる (動画配信) 年 4 回の配信の当日リアルタイム視聴者は合計 76 人。 YouTube チャット機能を用いた市民の参加では、団体の活動のきっかけを尋ねる質問や自分にできることについて感想が寄せられるなど、関心の高さが伺えた。 令和 3 年度アーカイブ配信した分のべ再生回数は 925 回。(令和 4 年 3 月末時点) アンケートは第 7 回配信について、1 件の回答があった。配信で団体を初めて知った、ボランティアに積極的に参加したいという声が寄せられ、配信が市民の意識を変えたことが分かった。 団体から確認できた市民のアクションは、団体への寄付が増えたケース 1 件、団体のボランティアが増えたケース 1 件。(前年度配信分) 第 9 回「量り売りマルシェ」配信後、環境問題に関心を持つ若年層視聴者が、買い物にきたケース 1 件。配信を見たことがきっかけとなり、アクションに繋がった。(令和 3 年度配信分) 2. 事業参加者フォローアップ 令和 3 年度、聞き取りし、活動の動きが確認されたのは 84 件だった。 以下、相談者の成果事例を 3 件掲載。 【事例 1 サポートセンター主催講座「はじめてのオンライン」受講者】 活動にオンライン会議システムを取り入れたことをロッカーの活動報告書から確認。詳細をヒアリングしたところ、コロナ禍でメンバー同士のコミュニケーションが取りづらい状況であった中、受講をきっかけに団体の内部会議でオンライン活用したことが分かった。団体から、新たにウェビナーやライブ配信などを活動に組み込みたいとの相談があり、継続対応中。 【事例 2 令和 3 年 5 月より相談対応中の団体】 思いの整理、任意団体の立ち上げから継続対応。令和 3 年 11 月 NPO 法人化。法人化にあたっては、法人認証の申請書作成や、所轄庁である NPO 認証係への取り次ぎなど、サポートセンターが継続的に対応した。

	【事例 3 令和 3 年 3 月より相談対応中の団体】 令和 3 年 3 月号「ぱれっと」の取材を契機に、団体の運営相談について継続して対応。これまでの活動を形として残す方法について相談を受け、せんだいメディアテークとの連携をコーディネート。令和 4 年 3 月に冊子発行。 3. 発表の場づくり 相談対応から 3 件の発表の場を作った（うち 1 件は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止）。マチノワギャラリーを活用したことのなかった団体や、コロナ禍で活動 PR の場が充分ではない団体などに発表の場を提供できた。 4. 若者の人材育成に資する事業への協力 (1) 宮城野区中央市民センター 若者社会参画型学習推進事業「まいぷろ」 高校生のビーチクリーン体験や取材活動に同行し、必要に応じ参加者の活動のサポートを行った。 宮城野区中央市民センターからの企画・運営相談に応じ、会場提供や情報提供を行った。 「まいぷろ」活動の様子を、サポートセンターのブログで発信したことにより、活動の情報発信・拡散に寄与した。 (2) 仙台まちづくり若者ラボ 若者を対象とした仙台のまちづくりのアイディアを出すワークショップなどの事業へ協力した。 (3) 仙台若者アワード 若者が中心の市民活動団体を対象とした表彰、および企業と協働で社会の課題解決に取り組む団体の公募事業へ協力した。前年度の仙台若者アワード参加企業から、若者アワードで学生団体と協働で実施した社会貢献活動について事業拡充の相談が入った。事業へ協力したことで、若者の人材育成だけでなく事業者の社会貢献活動促進においても成果があった。
課題	1. 支える市民を増やす (1) いづいっちゃんねる 視聴者への社会課題に関わる機会の提案が充分ではなかった。視聴者と一緒に、ゲスト団体のボランティアやイベントに参加するといった、リアルな場での関わりが新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり実施できなかった。 2. 事業参加者フォローアップ 講座実施後、メールでの参加者への聞き取りを行ったが、回答はなかった。普段からこまめな状況確認をし、講座参加者やサポートセンター利用者・団体と、繋がりを保ち続けることが重要である。 相談者へのフォローアップでは、聞き取りの対象が、継続相談者や貸室利用団体のみに留まった点が課題である。時勢によるが、サポートセンターから活動の現場へ赴き、実態・課題や成果を丁寧に聞き取る必要がある。

	3. 発表の場づくり 年間を通し、新型コロナウイルス感染拡大による休館・開館時間短縮といった変則的な開館になったため、積極的に発表の場を作ることができなかった。サポートセンター利用団体からの相談から、マチノワギャラリー・マチノワひろばに限らず、オンラインを活用した発表やサポセン主催事業と絡めた発表など、幅広く市民に知ってもらうための様々な発表の場の提案が必要とされていることが分かった。 4. 若者の人材育成に資する事業への協力 (1) 宮城野区中央市民センター 若者社会参画型学習推進事業「まいぷろ」 サポートセンターの持っている資源を、企画・運営へ十分に生かしきれなかった。今後はサポートセンターからも資源活用の積極的な提案を行っていく。 (2) 仙台まちづくり若者ラボ 事業の設計上、参加者の企画提案が活動として目に見えて展開されづらい。活動の具現化・展開においては、サポートセンターの相談機能やその他の事業を活用できる可能性がある。 (3) 仙台若者アワード 新型コロナウイルス感染拡大で、活動の休止や縮小を余儀なくされている学生団体も多いことから、エントリー団体の確保が難しく、サポートセンターとしても広報協力したものの団体のエントリーにはつながらなかった。
実施概要	1. 支える市民を増やす (1) いづいっちゃんねる 本企画では、地域に根差したメディア TOHOKU360 と、サポートセンターの協働により、市民が地域の課題について深く知るコンテンツを作り、広く発信する。市民が団体の情報を知り、地域の課題を考える機会を増やし、まちづくりに関心を持つ人、取り組む人を増やすことを目指した。 日時：次頁の表の通り。約 1 時間／1 回 手段：ZOOM+YouTube 対象：市民活動無関心層・何かしたいと思いを抱く関心層など 内容：毎回、ひとつの社会課題をテーマに、仙台市を中心に県内で解決に取り組んでいる団体をゲストに、インターネット配信番組を制作する。番組は、リアルタイムで配信するとともに、記事やアーカイブ動画等で残した。ゲストには、取り組む社会問題の現状や活動の様子、活動における課題について話してもらい、解決のために一人ひとりが出来るアクションも提示した。

配信日時	テーマ／登壇者	当日 視聴者	再生 回数
7月17日(土) 19:00～20:00	心のもやもやを受け止める現場から ／公益社団法人日本駆け込み寺仙台支部 支部長 織笠 英二さん 相談員 遠藤明子さん、 納田萌加さん、小川泰佑さん	25	278
9月15日(水) 19:00～20:00	性をまじめにオープンに ／東北大学 性を考えるサークル AROW 共同代表 しいのさん、かりんさん	15	272
12月3日(金) 19:00～20:00	あなたの知らない量り売りの世界 ／共同主催者 高崎かおりさん、佐藤千佳さん、 渡辺沙百理さん	26	264
2月28日(月) 19:00～20:00	それ行け！YARVOG 防災びっくり新常識 ／八木山地域再生・創生 ボランティアグループ・YARVOG 並河浩一さん、谷口和也さん、 ボウサイ仮面(杉澤修さん)、 防災レディ(谷口あゆみさん)	10	111
	計	76	925

※再生回数は令和4年3月末時点

2. 事業参加者フォローアップ**(1) 事業参加者へのヒアリング**

8月19日(木)～9月11日(土)の間、前年度実施の「はじめて講座」参加者のうち、連絡先記入があった方を対象に、メールで聞き取りを行った。

[聞き取り内容]

- ・「はじめて講座」受講後、取り組んだこと。
- ・活動で困っていること・課題。

(2) 相談者へのヒアリング

10月～12月の期間、継続相談者・団体を対象に、対面や電話で個別聞き取りを行った。

聞き取りの結果、長引くコロナ禍で、団体でオンラインを有効活用できない、という相談があった他、前年度実施の助成金講座受講後、助成金を応募し獲得できた団体があることが分かった。また、令和3年度、助成金に応募したい、応募したが獲得に至らなかったという相談が、年間20件以上寄せられた。需要があるため、令和4年度に助成金の講座を実施する。

3. 発表の場づくり

期間	団体	内容
4月16日(金)～ 4月25日(日)	西多賀まちづくり推進委員会	ザ・三神峯展※ (利用休止に伴い中止)
11月1日(月)～ 11月20日(土)	仙台ゴスペル・フェスティバル実行委員会	「第19回 仙台ゴスペル・フェスティバル」YouTube 配信！
1月4日(火)～ 1月31日(月)	仙台 JOCS	使用済み切手ボランティアで海外医療協力

※ザ・三神峯展はサポートセンターが利用休止となったため中止となった。

4. 若者の人材育成に資する事業への協力

(1) 宮城野区中央市民センター 若者社会参画型学習推進事業「まいぷろ」

宮城野区中央市民センター主催。将来の担い手である若者の「地域づくり活動への参画」と「自分づくり」を支援することで、主体的にまちづくりに関わる「人づくり」を目的とした若者参画型学習推進事業。令和3年度参加者は、尚絅学院高校生20人。令和3年度は、高校生の興味・関心を大切に、若者の視点から仙台市を中心とした宮城野区の魅力を取材。ウェブ記事やリーフレットにして発信した。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつも、年間を通じた活動ができた。サポートセンターが協力した事業は以下の通り。

日程	場所	内容
5月11日(火)	サポートセンター	まいぷろ打合せ
6月26日(土)	サポートセンター 向洋海浜公園	何する会議(参加者の関心調査・具体のアイデア出し) ビーチクリーン体験
8月4日(水)	宮城野区中央市民センター	情報発信の方法講座(取材) 講師：TOHOKU360 安藤歩美さん
10月24日(日)	CAFE DE MERCI	見学・取材
10月30日(土)	JICA 東北	見学・取材
11月13日(土)	八木山動物公園 フジサキの杜	見学・取材
11月21日(日)	仙台うみの杜水族館	見学・取材
12月11日(土)	サポートセンター	情報発信の方法講座(発信) 講師：TOHOKU360 安藤歩美さん
1月29日(土)	せんだいメディアテーク	成果報告会

(2) 仙台まちづくり若者ラボ

仙台市は、若者自らが「自分ごと」として関われるまちづくりに関するテーマを設定してワークショップとフィールドワークによる実践的なプログラムを実施。その成果を発信するとともに、まちづくり活動の担い手となる若者の発掘・育成を目指している。

サポートセンターが協力した事業は以下の通り。

日程	内容
5 月 26 日 (水)	仙台まちづくり若者ラボ 打合せ
6 月 16 日 (水)	仙台まちづくり若者ラボ 会場下見
6 月 24 日 (木)	仙台まちづくり若者ラボ 動画再生動作確認
7 月 6 日 (火)	仙台まちづくり若者ラボ 実施協力
10 月 6 日 (水)	仙台まちづくり若者ラボ 実施協力
11 月 2 日 (火)	仙台まちづくり若者ラボ 実施協力
12 月 2 日 (水)	仙台まちづくり若者ラボ 実施協力

(3) 仙台若者アワード

仙台若者アワード実行委員会では、多くの若者が若者主体の活動を知るきっかけとなり、より若者が活躍できる仙台をつくることを目的とし、2017 年から社会や地域の課題解決に寄与する優れた取り組みをおこなっている仙台市内の若者団体を表彰している。

サポートセンターが協力した事業は以下の通り。

日程	内容
11 月 26 日 (金)	仙台若者アワード最終審査会 実施協力

添付

☒ 広報物
 ☐ 配布資料
 ☐ アンケート結果
 ☐ その他 ()

個別事業報告書

【事業 4】協働に関する理解促進及び機会創出事業	
事業目的	1. 多様なまちづくりの主体が協働への理解を深める機会をつくる。 2. 市民活動団体が協働の担い手になるために必要な理解を得る機会をつくる。 3. 地域や社会の課題の解決に関心のある人たちが集い、交流できる場をつくる。 4. 市民目線で発掘された社会課題に対し、多様な主体が関わり課題解決のために力を発揮する環境をつくる。
成果目標	協働についての理解促進が市民レベルで着実に広まり、地域や社会の様々な課題の解決に多様な主体が様々な形で関わり、しなやかに対応していく環境をつくる。
実施目標	協働の理解促進や創出に資する事業を、毎年度 2 事業以上実施する 事業者と他の主体の意見交換する事業を毎年度実施
成果	1. 協働事例の発掘・理解促進 (1) 協働の現場トーク！ 動画「学生団体と企業・市民活動団体の協働」を制作（令和 4 年 4 月公開予定）。大学 1～2 年生と、合同会社や NPO 法人など大人中心の組織とが協働で事業を実施したことで、お互いにプラスとなる発想や工夫が生まれていることがうかがえた。 2. 協働の基礎知識を伝えるミニ講座 (1) はじめての協働 他地域の市民活動支援機関より、参考になったとの意見があった他、市民協働事業提案制度の応募を検討中の団体からもわかりやすかったとの声があった。 3. 多様な主体の交流の場 (1) マチノワフライデー 参加者のべ 59 人が交流した。 団体間の連携、ボランティア参加者、ゲスト団体への活動参加者があるなど、変化が見られた。ゲスト団体のプレゼン力強化にもつながった。 4. 社会課題解決のプラットフォーム（せんだい・みやぎソーシャルハブ） (1) せんだい・みやぎソーシャルハブオンライン情報交換会 のべ 11 回 Zoom にて開催、128 人の参加があった。 多様な主体が交流し、課題解決のために情報や意見の交換を行った。
課題	1. 協働事例の発掘・理解促進 (1) 協働の現場トーク！ 収録が 2 月だったため動画の完成が年度末となり、動画公開が遅れた。 2. 協働の基礎知識を伝えるミニ講座 (1) はじめての協働 動画を公開したがまだ活用しきれていない。仙台市市民協働事業提案制度、仙台市若者版・市民協働事業提案制度、仙台市地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業等の公募の際に動画の周知を図る必要がある。

	3. 多様な主体の交流の場 (1) マチノワフライデー オンラインリテラシーが均一でない中でのオンラインイベント開催の難しさがあった。チャットによる質問が活発に寄せられた一方、オンラインを通じた参加者同士の交流は難しく、今後改善の余地がある。 4. 社会課題解決のプラットフォーム（せんだい・みやぎソーシャルハブ） (1) せんだい・みやぎソーシャルハブオンライン情報交換会 参加者が固定化しがちだったので、関係人口を拡大するためにも情報交換から得た情報を効果的かつ頻回発信する必要がある。
実施概要	1. 協働事例の発掘・理解促進 (1) 協働の現場トーク！ 協働事例の紹介動画をインタビュー形式で制作、YouTube「さぼせんチャンネル」で公開（令和4年4月予定）。 収録日：令和4年2月24日（木）非公開で収録 場 所：仙台市市民活動サポートセンター 市民活動シアター ゲスト：学生団体 TSALL 東北 代表 伊藤潤一さん他2名 テーマ：学生団体と市民活動団体・企業との協働 杜の都の市民環境教育・学習推進会議（FEEL Sendai）の令和3年度未来プロジェクト事業に採択されたゲスト団体より、合同会社やNPO法人などと一緒に取り組んだ事業についてお話を伺い、それぞれの役割やどのようなきっかけで繋がりが生まれてきたのかなどポイントを探った。 2. 協働の基礎知識を伝えるミニ講座 (1) はじめての協働 公開日時：令和3年8月19日（木）公開 会場：動画公開（YouTube サポセンちゃんねる） 講師：サポートセンタースタッフ 対象：市民活動団体を中心に、地縁組織など協働について知識を得たいその他の組織。仙台市市民協働事業提案制度への応募申請を検討中の組織。 再生数：136回（令和4年3月末現在） 参加費：無料 内容：仙台市発行の『協働まちづくりの手引き』『協働まちづくりの実践』を紹介しながら、協働の定義の確認、協働事例の紹介、協働を進めるポイントを解説。特に、市民協働事業提案制度では、行政と民間の協働が対象となることから、行政の予算や計画の策定期間、行政の決裁の過程なども紹介し、相互理解をしたうえで、協働を進められるようにする。

3. 多様な主体の交流の場

(1) マチノワフライデー

開催	令和3年5月28日(金)19:00~20:30
会場	サポートセンター1階 マチノワひろば オンライン (Zoom)
ゲスト	謎杜プロジェクト 代表 根本聡一郎さん
内容	謎解きゲームによるまちづくりについて紹介し、東北を中心に活動する謎解きゲーム製作集団による謎解きゲームを体験。
参加者	会場2名 オンライン4名 (定員:会場6名 オンラインは定員なし)
総括	参加者は全員サポートセンターの事業初参加。謎解きに関心がある人や、生涯学習支援センターの職員など、多様な属性の人が参加。比較的若い20代~30代の人が多かった。
開催	令和3年7月30日(金)19:00~20:30
会場	サポートセンター地下市民活動シアター オンライン (Zoom)
ゲスト	一般社団法人仙台eスポーツ協会 代表理事 高谷 将宏さん 栗野 貴博さん 他
内容	eスポーツを福祉分野やまちづくりに活用している事例を紹介し、eスポーツを体験し、その活用の可能性を体感した。
参加者	会場7人 オンライン7人 (定員:会場6名 オンラインは定員なし)
総括	オンライン参加の個人からeスポーツイベントを開催したいがそれ以降の展開について相談したいとの申し出があり、ゲストにつないだ。会場参加者の中にはボランティア希望者や、高校進学後にeスポーツ部への入部を考えている中学生とその保護者などがあり、団体と参加者をつなぐ機会を提供できた。
開催	令和3年9月24日(金)19:00~20:30
会場	オンライン (Zoom)
ゲスト	ピースフルヨガ仙台 代表 笹川典子さん、浅野道子さん
内容	ヨガを通じた東日本大震災復興プロジェクトの10年間の活動を紹介し、顔ヨガを体験し、その心身の復興の効果を体感した。
参加者	13人 (定員なし)
総括	まん延防止等重点措置の適用期間だったため、オンラインのみでの開催に変更。楽しさの中で、得意なこと・好きなことを通して活動をつくっていくことができるというメッセージを参加者に伝えることができた。団体側にとっても、「活動を発表する」経験を通して、次年度以降の活動内容を考えるきっかけになった。

		開催	令和 3 年 11 月 26 日(金)19:00~20:30
		会場	オンライン (Zoom)
		ゲスト	手話サークルこみっと仙台支部 代表 船橋龍之介さん、副代表 及川想大さん
		内容	ゲストの団体の活動を紹介したほか、手話は難しい?という思い込みを解消して楽しく手話を体験する。パソコン要約筆記による字幕付き。
		参加者	9 人 (定員なし)
		総括	難聴者からの相談がチャットでゲストに寄せられ、ゲストの団体に参加することになった。中途の難聴者は手話ができない方もいるので、パソコン要約筆記による字幕を付けたことが当事者の参加につながった。マチノワフライデーのチラシをきっかけに、地元ラジオ番組にゲストが出演。番組には「筆談用のメモとペンを持ち歩きたい」とのコメントも届いており、聴こえない人への配慮について広がりがあった。番組のディレクターも、マチノワフライデーに参加。マスコミとゲストをつなぐきっかけとなった。
		開催	令和 4 年 1 月 29 日(金)19:00~20:30
		会場	オンライン (Zoom)
		ゲスト	アリーセさん(ラトビア出身)、アンディさん(インドネシア出身)、キーヤさん(ロシア/サハ共和国出身)、
		内容	会場でもオンラインでも参加できる体験型交流会。各国のお正月の過ごし方について情報交換し、異文化交流を図る。仙台市内の国際交流に関わる市民活動の情報も提供する。サポートセンターの外国人スタッフからの話題提供も行った。
		参加者	7 人 (定員なし)
		総括	お正月をテーマに各国の言葉で新年のあいさつを復唱するなどして、異文化交流を行った。一般参加者には外国人や国際交流団体の代表者、親子の参加者などが含まれ、多彩な顔ぶれとなった。
		開催	令和 4 年 3 月 25 日(金)19:00~20:30
		会場	1 階マチノワひろば 定点観測展示前から Zoom 配信
		ゲスト	3.11 オモイデアーカイブ 代表 佐藤 正実さん
		内容	東日本大震災に関連した日常写真を見ながら、参加者同士が意見交換することで震災の記憶をつなぐ体験をした。関連企画として 1 階マチノワギャラリー並びにマチノワひろばにて 3.11 オモイデアーカイブ主催の参加型展示企画をそれぞれ開催した。
		参加者	10 人 (定員なし)
		総括	東日本大震災に関連した日常生活の写真を見て、思い出したことや感じたことについて自由に発言することで、参加者が忘れていたことや当時の感情を思い出したり、違う立場の人の思いを知ることができた。東日本大震災の定点観測写真の展示企画と、震災に関連した日常写真の展示企画を同時開催することで、団体の震災を後世に伝える活動と来館する市民をつなぐことができた。

4. 社会課題解決のプラットフォーム（せんだい・みやぎソーシャルハブ）

(1)せんだい・みやぎソーシャルハブオンライン情報交換会

①定例会

さまざま立場の人が自由に参加できる情報交換の場としてオンライン上で情報交換会を開催した。

- ・4月1日(木)19:00～20:00 参加 10 人
- ・4月12日(月)19:00～20:00 参加 8 人
- ・4月26日(月)19:00～20:00 参加 8 人
- ・9月2日(木)19:00～20:15 参加 12 人
- ・11月8日(月)19:00～20:15 参加 5 人
- ・12月23日(木)19:00～20:15 参加 11 人
- ・3月1日(火)19:30～20:30 参加 15 人

②オンラインセッション

オンライン情報交換会で気づきのあったテーマに基づきセッションを行った。

テーマ：生理用品配布をきっかけに「頼れる先を知ってもらおう」多賀城の試み

実施日時	①令和3年6月4日(金)19:00～20:15 ②令和3年6月28日(月)19:00～20:15
会場	オンライン(ZOOM)
ゲスト	多賀城市保健福祉部生活支援課 課長 柴田光起さん
対象	ゲストの活動に関心のある人、まちづくりや市民活動に関心のある人
参加者	①14 人 ②8 人
参加費	無料
内容	多賀城市が企業の寄付で行った市内小中学校への生理用品配布についての報告と、意見交換。

テーマ「若年女性への支援」

実施日時	令和3年7月29日(木)19:00～20:15
会場	オンライン(ZOOM)
ゲスト	NPO 法人ほっぷすてっぷ 理事 森田みささん
対象	ゲストの活動に関心のある人、まちづくりや市民活動に関心のある人
参加者	18 人
参加費	無料
内容	ゲストから若年女性を取り巻く現状や支援者の対応状況、支援する上で直面している課題などの話題提供をしていただき、参加者と意見交換。

	テーマ：若者が力を蓄える機会を創出する ～キャッシュフオーワークみやぎの可能性	
	実施日時	令和3年9月29日(木)19:00～20:15
	会場	オンライン(ZOOM)
	ゲスト	認定 NPO 法人 Switch 理事・事務局長 今野純太郎さん 他2名
	対象	ゲストの活動に関心のある人、まちづくりや市民活動に関心のある人
	参加者	19人
	参加費	無料
	内容	ゲストから、新型コロナの影響で離職やシフトが減少した方を対象に、農業分野/IT 分野のスキル学習・職業体験・実習の機会を「雇用しながら」提供する制度「キャッシュフオーワークみやぎ」の事例紹介をいただき、新型コロナの影響で困難な状況にある若者がどのようにして次のキャリアに向かっていこうとしているのか、参加者と意見交換。
添付	☒ 広報物 ☐ 配布資料 ☐ アンケート結果 ☐ その他 ()	

個別事業報告書

【事業 5】調査研究事業	
事業目的	仙台の市民社会のあり方とあり方を支える仕組み（施策）を検討・試行し、協働によるまちづくり・地域づくりを推進する。
成果目標	仙台の市民社会のあり方とあり方を支える仕組み（施策）を検討・試行し、協働によるまちづくり・地域づくりを推進する。
実施目標	プラットフォーム運用体制の維持。 企業ヒアリングを通して、事業者へのアプローチ方法を検討する。
成果	社会課題のプラットフォーム（せんだい・みやぎソーシャルハブ）事務局の試験運用を協働体制により行った。 社会課題を市民の手で調査分析・可視化するソーシャルラボ機能を実装した。 企業ヒアリングを通し、情報技術の活用や DX（デジタルトランスフォーメーション）を利用してイノベーションを起こし、社会課題解決を行おうとする方向性がわかった。
課題	多様な機関による協働体制の本格運用開始。 広報の活性化。 ソーシャルラボ機能の継続運用。
実施概要	1. 多様な主体の参加による協働体制の構築 「社会課題解決のプラットフォーム」を構成する機関・団体（NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター、NPO 法人都市デザインワークス、一般社団法人パーソナルサポートセンター）が一堂に集まる定例ミーティングを年 3 回、社会課題解決のプラットフォーム運用のためのソーシャルラボ事務局ミーティングを 12 回、ヒアリングと勉強会を 2 回実施した。 ①定例ミーティング ・令和 3 年 5 月 13 日（木） ・令和 4 年 1 月 20 日（木） ・令和 4 年 2 月 1 日（火） ・令和 4 年 3 月 24 日（木） ②ソーシャルラボ事務局ミーティング ・令和 3 年 5 月 28 日（金） ・令和 3 年 6 月 10 日（木） ・令和 3 年 6 月 24 日（木） ・令和 3 年 7 月 7 日（水） ・令和 3 年 7 月 22 日（木） ・令和 3 年 8 月 4 日（水） ・令和 3 年 8 月 30 日（月） ・令和 3 年 9 月 6 日（月） ・令和 3 年 9 月 21 日（火） ・令和 3 年 11 月 1 日（月）

	学生団体 manaco へのヒアリング ・令和3年11月25日(木) ・令和3年12月9日(木) ・令和3年12月20日(月) 「異分野における課題解決のための対話と実践」勉強会 ・令和4年2月5日(土) 2. 在仙企業への社会貢献活動に関するヒアリング調査 社会課題解決への企業の参画を促進するために必要な要因を探るための、地元企業へのヒアリングを5回実施した。 ・令和3年10月22日(金)オンラインヒアリング 「NTT 東日本、NTT 都市開発」 ・令和3年11月9日(火) 「NTT 東日本、スマートイノベーションラボ」 ・令和4年1月13日(木) 「東北電力」 ・令和4年2月17日(木) 「東北電力」 ・令和4年2月25日(金)オンラインヒアリング 「プロトソリューション」
添付	☒ 広報物 ☐ 配布資料 ☐ アンケート結果 ☒ その他（調査報告書）